

一般社団法人復興みなさん会

2020年度 活動報告書

2020年4月1日～2021年3月31日

一般社団法人復興みなさん会 2020年度 活動報告書 目次

2020年4月1日～2021年3月31日

1. 南三陸椿ものがたり復興

1-1. 椿はな咲くまちづくりお茶会 . . . 1

1-2. 椿のまちづくり活動 . . . 1

2. 新しい市街地におけるコミュニティづくり . . . 15

3. 復興まちづくりに関する情報発信事業 . . . 21

4. 関係主体との情報交換・連絡調整 . . . 28

5. 団体運営に関する事項

5-1. 総会の開催 . . . 30

5-2. 理事会の開催 . . . 30

5-3. 例会の開催 . . . 30

5-4. 団体情報の発信 . . . 30

6. 決算書類 . . . 32

資料編 . . . 37

1. 南三陸椿ものがたり復興

南三陸町に多く自生しその実からとれる油が生活に使われる等、町民の記憶に様々な形で残る「椿」。大津波や塩害にも耐え生き残ったその逞しい植生から、この町に生き続ける者たちが生き方を学び、復興に向けた希望を共有するため、椿をテーマとした交流・まちづくり活動を継続して行った。

本活動は、以下の助成事業の一環として実施したものである。

<財源>

- ・ 仙台銀行まちづくり基金助成金（４月～１０月）
- ・ みやぎチャレンジプロジェクト助成金（宮城県共同募金会）（４月～１０月）
- ・ 東日本大震災現地 NPO 応援基金[緊急助成]新型コロナウイルスの影響を受ける
現地 NPO 支援助成（６月～１２月）
- ・ みやぎ地域復興支援助成金（宮城県地域復興支援課）（４月～２月）
- ・ 東日本復興支援事業助成金（中日新聞社会事業団）（４月～３月）

1－1. 椿はな咲くまちづくりお茶会

椿の話題をきっかけに町民どうしの交流を図り、新しい町への希望を共有する場として開催した。

※復興公営住宅入居者等を対象として実施。取組内容は「2. 新しい市街地におけるコミュニティづくり」を参照。

1－2. 椿のまちづくり活動

①椿の植樹、下草刈り、植樹地への通路の整備作業等

②椿の種ひろい、苗の育成活動

将来の津波災害の際、避難路となる道筋に沿って椿を植え、避難の目印にする「椿の避難路」づくり事業の一環として、以下の活動を行った。

すでに植樹がなされた避難路について、草刈り等の整備活動を４回（6/17、7/12、8/5、9/17。志津川上山～城場地区。参加者各６～８名）、後述の復興祈念公園内に植樹したエリアの整備活動を１回（11/18）それぞれ実施した。町民団体・企業や外部支援者、特に夏休み期間の学生ボランティアの皆さんに多く協力いただき実施した。

椿の植え替え作業の様子
（６月１７日）



於：上山八幡宮、境内



- ① 梅雨の晴れ間に
椿の苗木150本の植え替えを
しました (約)



- ③ 次に小さめの苗木を3本ずつ
大きなプランターに移植しました



- ⑤ 今後、この苗木は、山道に逃げる
遊難路に、また
秋に全体開園する新念公園にも
植えてゆきたいと思ひます
つづく

椿

の植え替え イベント

2020.6.17(水) AM 9:30~12:00
復興みなさん会 + 南三陸椿くらぶ
= 6名



- ② とても牛際よく大きく育った椿から
大きな鉢に移していきました
その数は約40本！
もう地植えしてあげたい大きさです



- ④ 途中、休憩をはさみながら、無事に終了！



よかったネ

今回買ったもののリスト

培養土(30ℓ)	6袋
赤玉土(14ℓ)	12袋
プラター(大)	31コ

あとは既にあるもので。

← 伸び伸びと出来て
みんな嬉しうでした!!

さらに、将来の植樹に向けた苗づくりや椿油の材料とするため、椿の種拾いイベントを1回実施した（10/30）。

※「2. 新しい市街地におけるコミュニティづくり」参照。

③南三陸町震災復興祈念公園の運営に町民が関わる仕組み・機会づくり

○公園をフィールドとした活動の試行

南三陸町の中心部、志津川地区の津波被災エリアに整備された「南三陸町震災復興祈念公園」。町民の憩い・祈りの場となるとともに、訪町者を迎える交流・震災伝承の場となることが期待されている。震災前の町にはなかった6ヘクタールもの大きな都市公園であり、設置者である町役場単体での管理は難しく、多くの町民が関わる持続可能な運営体制づくりが課題である。

公園内で実際に町民が管理運営に携わる機会をつくり、持続的な活動を始めるきっかけとするため、当会が2012年度来継続して実施してきている津波被災エリアからの避難路沿いに椿を植樹する活動「椿の避難路づくり」の一環として、復興祈念公園内に椿を植樹するイベントを以下の通り実施した。

日時 10月8日（木）13：30～15：00

会場 南三陸町復興祈念公園内 みらいの森エリア

主催 一般社団法人復興みなさん会

協力 西宮ロータリークラブ、南三陸椿くらぶ、南三陸志津川ライオンズクラブ
志津川中央復興公営住宅の皆さん

参加 約40名

取材 河北新報（11日朝刊掲載）

三陸新報（9日掲載）

朝日新聞仙台総局（9日掲載）

東北放送（8日放映）

東日本放送（9日放映）

ミヤギテレビ（8日放映）



さらに12月13日に、南三陸町役場が主催した震災復興祈念公園の植樹会に、町民参加者をコーディネートする活動を行った。



南三陸町震災復興

祈念公園にて

椿の植樹会

こあんない

主催/社 復興みなみ会



南三陸椿ものがたりに
いつもご参加ご協力下さまして
ありがとうございます♡

さて、いよいよ下記の日程にて
椿の植樹会を開催します♡

震災後の2012年から始まった活動の

集大成でもある植樹会です
ぜひご参加をお待ちしています。👇



日時: 10月8日(木) PM 1:30~3:00

集合: さんさん商店街の 向かい側 上山八幡宮 駐車場

(1:15までに ご集合下さい)

内容: 椿の苗木を分担して植樹します
(1.5mサイズ)

43本

持ち物: 軍手、タオル

その他

コロナ感染症対策として マスク着用で行いますので
ご協力よろしくお願いします

○公園管理への町民参加の枠組みづくり～他団体との連携

津波被災エリアに町の復興のシンボルとして整備されている「南三陸町震災復興祈念公園」の管理運営に多くの町民が参加できる仕組みを作っていくため、町内のまちづくり団体（志津川地区まちづくり協議会、かもめの虹色会議）と連携して、話し合いの場を12回設けた（5/29、5/30、6/19、6/27、8/6、8/20、8/21、10/16、10/23、11/9、2/19、3/16）。



かもめの虹色会議の様子
（5月30日）

上述の協議団体を中心として、町内の団体に呼び掛け、震災復興祈念公園の活用方法や仕組みについて考える「さんサンポートプロジェクト」が11月に発足、年度内に4回の会合を開催した。（11/25、12/10、1/27、2/23）。

・山元町「つばめの杜公園管理会」来町対応

山元町「つばめの杜中央公園管理会」の会員ら16人が11月6日に来町した。当会会員と意見交換した後、震災復興祈念公園内の視察について対応した。

「つばめの杜中央公園管理会」
視察対応の様子（11月6日）



・「南三陸椿くらぶ」との連携事業

町民団体「南三陸椿くらぶ」と連携し、外部から町を訪れた方々に椿のまちづくり活動について伝えていくための「椿のきりこはがき」作り等を行う活動を上山八幡宮社務所にて6回（4/5、5/2、6/4、7/29、8/23、3/7）実施した。椿のまちづくり活動での連携も深まってきている。



かもめの虹色会議レポート

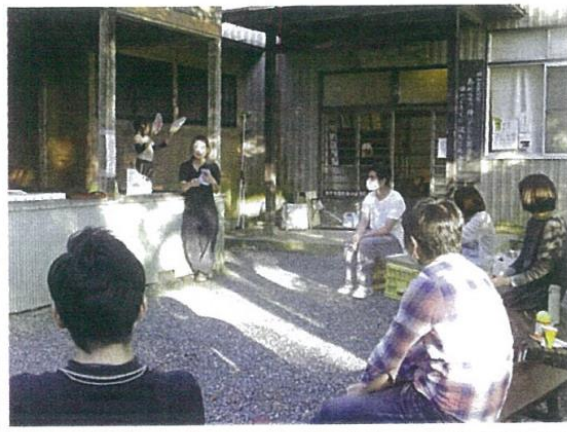
2020.5.30 PM 3:30~6:00

参加者 9名 上山川中stream.境内にて



①

新型コロナウイルス感染症対策として
三密を避けるため
初めて野外にて会議を行いました



② 前半は、「コロナの今昔物語」として
それぞれの実感を語り合いました
失ったもの、得たものが
いろいろとみえてきました



「得たものが
多かった
どう見ても
多数でした」

③

後半は、震災復興記念公園に入て。
景外からの訪町者、ボランティアが減ると...
どうなるか

どういふは掛け
取り組みが
必要かを
話し合いました



志保地区
まちづくり協議会
を経て

町に提言する
資料に反映します

(資料参照)



④

次回は6/下旬.

前半は
ZOOM会議
東京芸術大学の
社会学部の
みなさんと
話し合います。

後半は
境内会議

活動の
具体策を
考えます

(2020. 8. 20. PM 6:30 ~ 8:30 志摩い地区まちづくり協議会・三役会 ほか)
出席... 渉会長、大萩 祥子、夏ら (又・翔子)



内容 8/21の役員会について

① 提言書(案)の完成! 水いあちゃん Thanks!
→ checkして良ければ当日
建設課の課長に牛渡す

② 提言書に記したアクションのとり
植樹について、情報を交換

町 町内の小学校にちらしを配り布て呼びかける案 (76ファミリー限定)

→ 応募者の状況を見て 他団体にも声をかけてゆく ⇒ 公園を育む会の
→ 椿(43本)は別ルートで(寄附) ベースにする

→ 木につけるプレートなどの
仕掛けを作って つなかりを創り出す★

楽しい
からくりを
演出せよ!

・ 背くらべ、写真さつえい
・ クリーン作戦、宝さがし
・ オリエンテーリング「防災カード」
・ ポイント制「ゴミ拾い」みつけ!
→ さんさんとコラボ(協賛)
・ ジュニアフリーター(高校)とのコラボ



↑ 名簿が出来る ↓ 案内

草刈り → 入札の際のポイントなどに反映させる(企業の応援で草刈りなどしてゆく)

まち協

以上のようなアイデアを提供してゆく
役割

ひまず、植樹祭を足がかりに
スタートしてみる!!

9月 - 応募

10月上旬 - 内容計画
(10/16 役員会)

↓ 11月 - 本番 (←サポート)

※ 関わる人をゆくり増やしてゆく

※ スタートは 助成金が出ているので
(復興みなさん会) 走りながら 次を
考えてゆけば いいのでは...?

つぐ



部会の今後

→ 柵を取り除いても良い時期
単発で 声をかける所に変えても!!

南三陸町震災復興記念公園をあるまじくの会

2020.11.25 14:00~16:00

14:00~

中橋のたもとに集合!
志津川まち協の及川会長より
あいさつ



みなで中橋を渡る。
初めて行く人も3人ほど
結構高い(12m)ので
橋の上はドキドキするといく声も

参加団体名 役場・オカルト部会
志津川地区まち協・サステナビリティセンター
ネイチャーセンター友の会・カモメの虹色会
南三陸町観光協会・YES工房
まろくり未来・アミタ 議員
(協力: 復興みなみ会)

橋のらんかんにかもめのフンが多い
→鳥インフルに用心してあまり触らない方が
看板の上に止まらないよう
ピアノ線などで
予防線を!



築山のてっぺんには防災グッズがベンチの下に保管されている
→でも使い方を知らなければ役立たない
→この場で使い方の訓練をしたい!!



この後、みらいの森 防災庁舎を回って、社協へ。

15:00 社協所にて、意見交換TIMEスタート!



まず全員から感想を頂く。

・思っていた以上に良かった! 周りの自然と共に考えたい
・良い運動になる、志高などとタイアップして!
・新しい視点に気づけた(建設課)など。—— 一方で



・みらいの森の栄養不足心配
・草刈り大変(建設課)
・使うルールを早く決めよう
中橋の今後についても今から!
・使い方に幅を!
・案内をもっと 窓口をつくる
・関わり方がみえていない
などなど。

15:20

まち協からこれまでの経緯を伝え、
公園を管理する、とい
名目ではなく、...

- ・イベントと同時開催で行く。
- ・関わる団体にメリットがあれば続く
- ・高校生は巻き込みやすい
- ・何度も歩く機会を作って感じてもらう
- ・楽しいプロジェクトを通して結果的に
きれいになる、といふ展開が理想

何かが出来るかと同時に、共通のビジョン
を、次回は出し合うことになりました



あやしい団体... 名前はまだない。

南三陸町震災復興祈念公園を長期的に維持するためには…！？

□まちづくり協議会でのあゆみ

志津川地区まちづくり協議会では、南三陸町震災復興祈念公園の開園に向けて、公園をどのように活用していくべきか、長期的に維持していくためにどんな取り組みが必要か、そのためにどんな人たちが協力し合う必要があるか、そしてそのためにどのような条件や体制がふさわしいのかという点について、部会をとおしてのワークショップや役員会、有志の会との意見交換等を行ってきました。そして、令和2年度には「南三陸町震災復興祈念公園を町民参加で活用していくための提言」をまとめ、提出しています。以下の課題と対応策の検討が必要だと考えています。

□震災復興祈念公園への課題と対応策

①まずは、南三陸町震災復興祈念公園を知ってもらうことが必要！

☞公共の公園であるため、町にいるみんなの公園ですし、祈りの場はあるものの、日常的に訪れたり子どもと遊びに来たりして良い場でもあります。しかし、祈りの場の印象が強いため、町民でもなかなか気軽に訪れてはいけない印象を持っている人もいます。まずは、公園に気軽に訪れることができる機会を創出し、公園をどうしていきたいか一緒にかんがえたい仲間を増やすことが必要だと考えます。

②次に、知ってもらったうえで公園を守っていくためにどうしたらよいかをみんなで考える！

☞公園に関心のある人たちが集まったところで、公園をどのように使いたいのか、どんな企画ならもっと人が集いやすいのか、将来的にどんな場所になっていくと良いかなどを考えて意見交換をしていく必要があると考えます。そして、公園の関係者たちで年間企画や楽しく維持管理できるキャンペーンイベントなどを企画して、効率よく回していきたいと考えます。ぜひ、皆さんとも一緒に考えていきたいです。

③そして、みんなで無理なく協力し合える体制を構築して守っていく！

☞どう使いたいのかやどういう体制が無理ないかを話し合ったうえで、公園を守っていくようなプロジェクトを発足し、さまざまな関係者と共に役割分担をしながら公園を守っていけるよう動き出したいです。

STEP1:公園を知る

- ・どんな公園？
- ・どう使っている？

STEP2:公園を考える

- ・この先どう使う？
- ・この先どう残す？

STEP3:公園を維持する

- ・どんな方法がいい？
- ・どんな体制がいい？

□例えばこんなことできない？

まだまだ話にあがった妄想ですが、
こんなことを考えてました！

町が全体的な管理はするものの、町民が使わない、来訪者が訪れにくい公園に税金がただ投入されていくのではなく、町民が身近に感じ、それが教育やまちづくりにも繋がり、そして訪れた人たちにも特別な場所になることで、税金が使われることにも納得がいくし、今後減っていく人口の中で税収が減っても守って行ける公園維持管理の仕組みを構築したいと考えています。

例えば、教育や福祉の面では草刈りやごみ拾いなどを年間行事に入れてもらい、守り手の一員になってもらう。有志団体関連はできる企画とクリーンアップ運動を抱き合わせて行う。観光や商業はビジネスと組み合わせる。町はそれらのバランスを見て必要に応じて事業化し発注する、などです。





第2回 サンサポートPJ レポート

2020. 12. 10. 14:00 ~ 16:30

参加団体: 志摩い地区まち協
サステナビリティセンター・ネイチャーセンター協会
アミタ・みろさん会・佐久・観光協会
がもい・虹電合衆・仮場建設課 / 11名

内容は以下通りでした。

①~③を自由に発言したものを書き残しました。

第2回 サンサポートPJ HG 2020. 12. 10. 14:00 ~ 16:30

14:00 1 あいさつとふりかえり

14:20 2 今日の内容 (各団体のミッションを共有)

①みなさんが考えてきたことの共有
②共通点を探してキーワードを考える
③今後の体制やプロセスを考える

めぐる (いのち・時代・想い)
人と人のつながり **世代を重ねる!**
→ 防災庁舎をまちづくりの拠点に
夜肥を語る (沼津市特産品)
釣り good ← いろいろな力

活動自体が主目的
可成り地元の人材を活用して販売 (新りのみ)
活動資金に充ててゆく
イメージと意図への違和感 (明治神宮の森のよう)
自然が育つ場所 ← 今後の取り組み
公園をまわすに 自然を学ぶ × なりわい
イメージのすり合わせも必要 (参考資料) → 1/2 周辺マップをみる

1回目 どのくらいにしたいかは、おのずから
OOのために活動しよう
2回目 どのくらいにしたいかは、おのずから
3回目 どのくらいにしたいかは、おのずから

公園を案内する方法を知らない
地域の人が住んでいる感じがしないので
行く人を増やしていく
年間の中で公園をどう使うか
まわすという行為は、
入居 → 開かぬ
年間の中で公園をどう使うか

めぐる (いのち・時代・想い)
人と人のつながり **世代を重ねる!**
→ 防災庁舎をまちづくりの拠点に
夜肥を語る (沼津市特産品)
釣り good ← いろいろな力

活動自体が主目的
可成り地元の人材を活用して販売 (新りのみ)
活動資金に充ててゆく
イメージと意図への違和感 (明治神宮の森のよう)
自然が育つ場所 ← 今後の取り組み
公園をまわすに 自然を学ぶ × なりわい
イメージのすり合わせも必要 (参考資料) → 1/2 周辺マップをみる

めぐる (いのち・時代・想い)
人と人のつながり **世代を重ねる!**
→ 防災庁舎をまちづくりの拠点に
夜肥を語る (沼津市特産品)
釣り good ← いろいろな力

活動自体が主目的
可成り地元の人材を活用して販売 (新りのみ)
活動資金に充ててゆく
イメージと意図への違和感 (明治神宮の森のよう)
自然が育つ場所 ← 今後の取り組み
公園をまわすに 自然を学ぶ × なりわい
イメージのすり合わせも必要 (参考資料) → 1/2 周辺マップをみる

上記を れいあちゃんに次回お話し
まとめようことに。

大きなキーワードとしては

- ・めぐる (いのち・自然・想い・歴史)
- ・世代を重ねてゆく (次世代へ)
- ・アクションは Map づくり!
- ・イメージのすり合わせは必要
- ・愛称から目的を絞り込む
- ・体制は2,3月に整える! etc

→ 次回は 1月27日(水) 14:00 ~ です!!



さんサンポートPROJECT 概要資料（案）

①さんサンポートPJに至るまでの背景

(1)志津川まちづくり協議会・部会の活動

震災前にはなかったおよそ6haの公園。周囲は災害危険区域となり近隣公園としての管理は難しいため、町民の関心を高め持続的な運営体制をつくっていくことが課題であるとして「公園の関係者マップ」「1年間の公園の使い方マップ」などを作成しました。

(2)志津川まちづくり協議会・役員会での検討

まち協の部会やその他町民有志の会で議論されてきた「町民主体」や「協働」の在り方を実現させるために〈STEP1：公園を知る活動〉→〈STEP2：公園を考える活動〉→〈STEP3：公園を維持する活動〉の必要性和その具体例を提言書として町に提出しました。

(3)「公園をあるこう会」等での周知・検討活動

町民有志の会である「復興みなさん会」の協力も得ながら、まち協主催で提言していた「公園をあるこう会」を開催しました。町の職員から説明を受けながら公園を歩き、気付きや今後の課題について共有し、公園を守っていくためにどうしたら良いか意見交換の場を3回実施しました。また、同じく提言していた植樹会も地元の小学生を中心に呼びかけて実施しました。

(4)「さんサンポートPJ」の発足

震災祈念公園も開園し、いよいよ公園の維持や活用を本格的に考えていく必要があるということで、これまでの経緯の中でも関わってきた有志及び今後公園と関係して欲しい事業者・団体等組織にも呼びかけをし、プロジェクトとしての発足を検討した結果「さんサンポートPJ」と名付けました。

②志津川地区まちづくり協議会からの提言

提言その①南三陸町震災復興祈念公園がどんな公園なのかを知る：志津川地区にあるものの町の公園だしみんなの公園です。日常的に訪れたり子どもと遊びに来て良い場所でもあります。しかし、祈りの場の印象が強く、町民でもなかなか気軽に訪れてはいけない印象を持っている人もいます。まずは、公園に足を踏み入れる機会を創出することが大事だと提言しました。

提言その②どうやったらみんなで公園を使ったり守ったりできるか考える：公園をどのように使いたいか、どんな企画ならもっと人が集いやすいか、将来的にどんな場所になっていくと良いかなどを考えて意見交換をしていく必要性和そのためのイベントについて提言しました。

提言その③みんなで無理なく協力し合える体制を構築して維持する：まずは、イベントや呼びかけに応じてくれた町民たちで集まって考え始めるところからスタートしつつ、例えば町内の子どもたちや事業者、団体などがさまざまな立場からそれぞれの方法でできる関わり方を検討すること、そして無理なく長く続くような体制を構築していく必要性を提言しました。

③「さんサンポートPJ」発足

POINT①「会」ではなく「プロジェクト」に

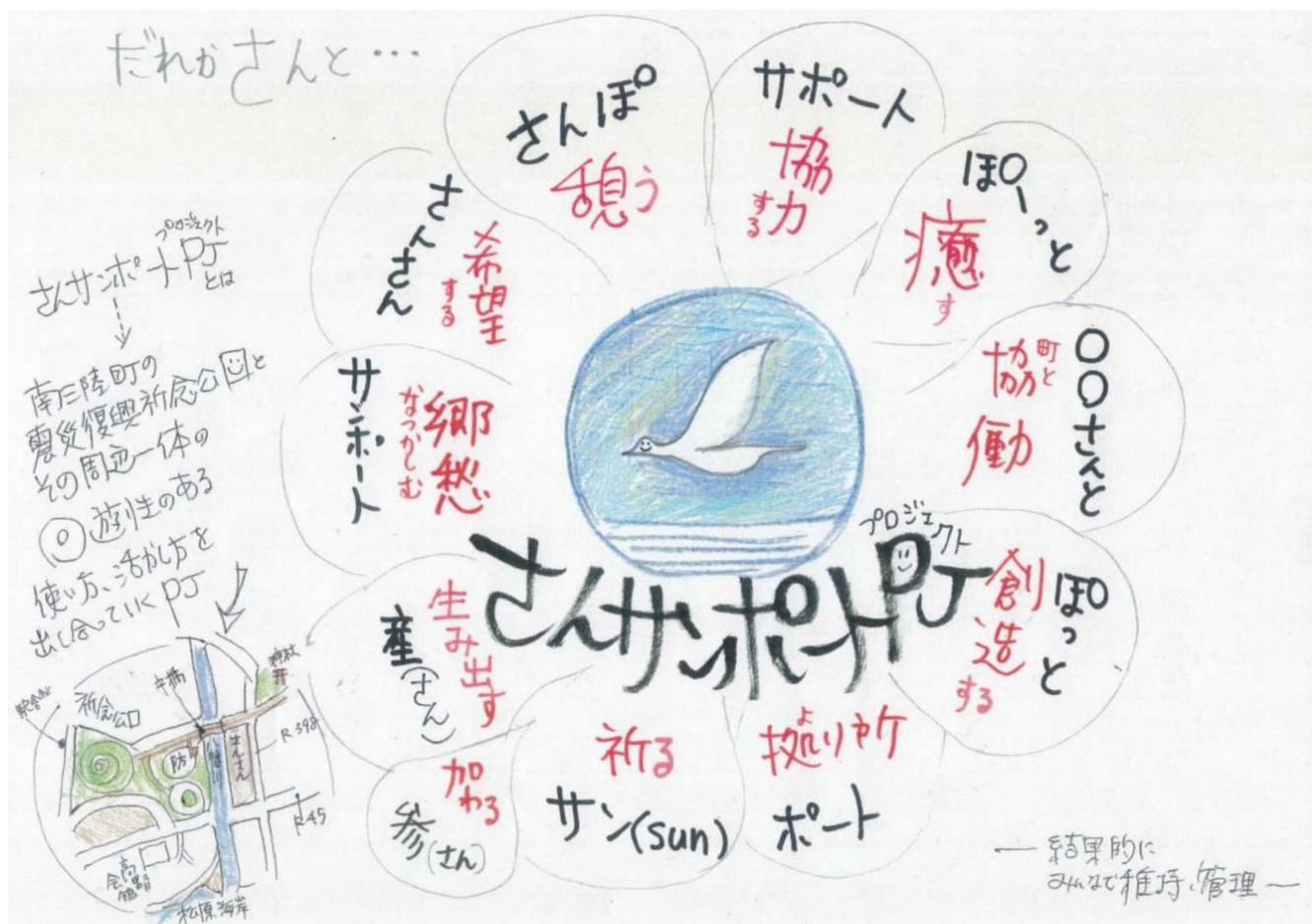
体制づくりを考えていくうえで、できるだけ偏った人たちで考えるのではなく、町の多くの関係者で公園のことを考えていけるような体制にしたいという思いがありました。そこで「〇〇会」と限定的な会員をつくる組織化ではなく、賛同してもらえれば誰でも参加できる「〇〇プロジェクト」として立ち上げることで、一般町民でも有志の会でも事業者でも公務員でも、それぞれのアイデアや方法で関われることを目指します。（なお、そのうえで必要な事務作業等のための事務局を設けます。）

POINT②プロジェクト理念

まだ生まれたばかりの公園。「こう守る」を理念にするのではなく「みんなでどう守っていくか」を常に考えていくことを理念とし、教育・福祉・観光・復興・産業などさまざまな分野で話し合い、アイデアを出しながら成長していくプロジェクトを目指します。また「公園の維持管理」だけでなく公園の賑わいや維持管理にも関連するエリア一帯を含めた取り組みとします。

POINT③“さんサンポート”由来

今回公園からスタートした検討も、公園の維持管理だけを掲げたらわくわくした取り組みができないという観点から、エリア一帯をみた取り組みにしていこうと理念を決めました。エリアとしては商店街と隣接することから「さんさん」や川・海・祈り・学び・賑わいなどさまざまなキーワードが出てきました。そこで、「さんさん（さんさん商店街・お日様さんさん・明るい未来のイメージ等）」とした「ポート（港）」という意味を持たせた「さんサンポート」というネーミングが浮上しました。その中には、かつて町にあった思い出の商業施設「サンポート」も隠れていて、懐かしい気持ちにもなるという話にもなりました。そして、「さんサンポート」を分解していくともっとたくさんの意味が込められていることに気がきました。



③「さんサンポートP」に込めた想いと取り組みの方向性

上記の絵は「さんサンポートP」の名前に隠れているいろいろな可能性をみんなで紡いでみた絵です。

“希望、憩い、協力、癒し、協働、創造、拠り所、祈り、参加、産み出す、郷愁…”

これらのイメージもこの名前の中に隠れていることから、公園のことだけでなく少し広く見たエリアをこのような観点でさまざまに捉えて検討し、企画や仕組みをつくっていかうと考えています。

つまり、例えば憩いの場や拠り所としてこのエリアを訪れることができる企画をすることで、あるいは祈りの場としても大切にしていける取り組みをすることで、地域の子どもたちへの体験企画をすることで…などによって、結果的に公園に足を踏み入れ、公園をキレイにしていけることや活用していくこと、賑わいを創出することに繋がっていければと考えています。



まだまだアイデアレベルですが、
こんなことができないかなと考えています！



取り組み案その1：来場者も参加できるクリーンアップキャンペーン（観光・商業・協働など）

さんさん商店街やこれからできる道の駅、伝承館などと連携して、町内のみならず町外からの来場者についても、震災祈念公園に足を踏み入れる際にごみ拾いに参加してくれたり何かしらお手伝いをしてくれることで、ちょっとしたお得なサービスを得られるようなキャンペーンを実施する。事業者も公園管理（町）もお客さんもWIN-WINな仕組みを目指す。

取り組み案その2：子どもたちと自然・歴史を学びながらクリーンアップ体験（教育・文化・創造など）

「ふるさと学習」（＝「ふる学」）の文化がある南三陸町なので、今回のプロジェクトエリアもそのフィールドとして、川のこと、海のこと、産業のこと、震災のことを教え体験する企画をし、その中で公園のクリーンアップも一緒にやることで公園への愛着や関心を高めてもらう。学校との連携や地元の達人たちの活躍の場にもなって欲しい。

取り組み案その3：年に1回ずつ行政区交流の場として公園を守っていく（福祉・憩い・交流・福祉など）

震災後、町民運動会もないし行政区同士の交流の機会もなかなかないため、年間数回、人数等も考慮して複数行政区ごとにグループをくくり回数を分け、交流会兼公園をキレイにする会を企画する。企画自体はお花見や健康体験など取り組みやすく楽しい企画にし、最後にみんなで公園のお手入れやお掃除を手伝う。



現地ツアーの導入に。フィールドワークに。橋にカウンター。



福祉の共育に。世代間交流の場に。お便りで発信！



公口の模範づくり。鬼ごっこ大会。教委と連携を ☆ 次回は4月8日の14:00 ~ お待ちしています — すじ



グッリづとり あれこれ memo

ロゴマーク活用しよ！ (→収益につなげる→管理費に)
 バッチをつくる → 高校生や 結の里のみなさんと協力して!!
 ex シールをつくる → 協賛店(個人)に配布して発信.. などなど

さんさんサポートPT 4回目 (ホー)

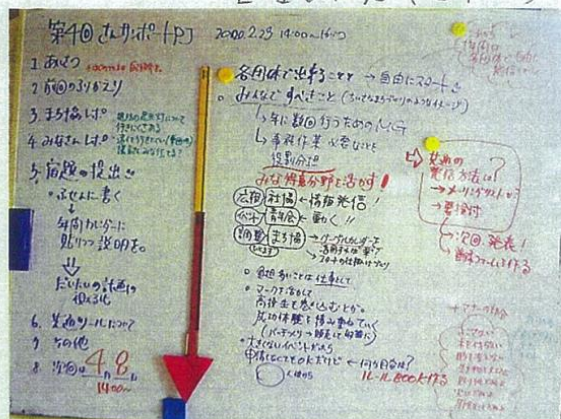
日時: 2020年 2月23日
 14:00 ~ 16:15 (ハコ館 社務所)

参加者: 14名

- ・まち協、サステナビリティセンター
- ・南三陸ネイチャセンターの会
- ・ふっこう青年会、復興みらい会
- ・WEMENSPAY かもめの女性会様
- ・議員、アミタ、社協、役場建設課

内容: 前回の宿題の発表を ^{女性の} 知輝くん
 各団体ごとに行って
 1年間の活動計画(案)を作り
 ながめてみました

→ みんなで行うことの役割分担を
 整理しました (途中まで)



今回のまとめ

- ① 1年間は 各団体で活動を決めて
自由にスタートしよ!
- ② みんなですべきことの
役割分担を明確にしよう!
- ③ 共通の発信ツールを作ろう!
→ 次回まで(案)をつくる

★ 次回は ②と③を深掘りします



さんサポートPJ 笑! 新念公(笑) 周辺の使いかカレンダー

2020.2.23のまゆも

カテゴリ 月	だれがでんと 交流	ほーっと いいい	サポート 管理	学び 参加, 支出	その他 たくさん	これも やりたい(笑)と思ふ 自由に書き込んで下さい
1月 	たこあげ大会 季節の行事 アミタ	祈りの丘へハハ音宮 歴史さんぽ ～新年会 ネイター会の会	樹木のチェック 町+PJ 	※寒い時期は空 →検定つくり →MAPつくり	内で土台つくり 教養と連携) 伸ちゃん+PJ (ネタあつめ) PJ	
2月 				(4～9月にかけて) 	鬼つりマップつくり のぞみ+PJ	
3月 	椿のお花見 ～花みだし みなり+PJ		椿の根元に 芝草を+液肥 →保湿 アミタ	バードウォッチング ＜いづみ川～松原＞ ネイター会の会 22	3月11日 震災の追悼行事	
4月 	(桜のお花見 シーズン)			鯉光協会 学習旅行のサポート	Instagramで発信 公の11-11 Book つくり (4～9月) まち協	
5月 	・南三陸クイズ大会 →かるた形式? →宝さがし? アミタ	・朝日をあびよう あさほろ体験 (春～秋) 神社 ・歩け歩け大会(春) ねえ	ごみ拾い マラソン大会 アミタ	子供たちへの 福祉教育事業 社協	PJの周知 ロゴの活用と発信	
6月 		カモめの青空かいぎ (天気の良い日) かめめ		子供たち (春～秋) 防災教育の フィールドとして サポート 学校+PJ	元高生や(社協)さん とバッチつくり →お昼に社協 運営に まち協	
7月 	鬼ごっこ ＜大人vs子ども＞ ふこ+清々会	芝おどり(OKなり) ハハ音宮の参道	定期的な 草刈りイベント 町+さん+PJ	・松かんぽつ ねえ ＜松原海岸＞ ・車カ画製作展 サセン	Instagramで フォトコンテスト まち協	
8月 	(周辺で) 炎の祭り	夕涼み会 かめめ+ we		早稲田大学 初等部の フィールドワークの 導入 サセン	夏やすみコンクール 絵画 111種 photoコン +PJ	
9月 	・かかり火祭り さん+神社(中橋) ・世代間交流とて	秋祭り 神楽・湯御 と権現行列 神社	ドローン撮影 →上映会 アミタ	祈りの丘で 星空わんさつ会 ネイター会の会	役割分担 しかり 出来れば。	
10月 	→走りない運動会 →ウォーキング →グリーンUP大作戦 →卒業会 社協	weと子育てママの 野外イベント &物販 we	樹木のチェック 町+PJ	里海カンパリス 現地MAPの導入 サセン		
11月 	椿のたねに拾い みなり+PJ	歩け歩け大会(秋) ネイター会の会	公園周辺の クリーンUP大作戦 町+PJ	防災訓練の フィールドワーク 町+PJ	アート作品つくり 	
12月 			液肥の散布 アミタ		※寒さと共に 公園から 足が速くなる時期 (12～2月)	
通年	ウォーキングイベント いっしょにあるこう会 語り心 語り心 定例会(PJ) PJ	おみりおさんぽ みらいの森でお昼 みなり たれで	いつでもきれいに! 橋にかつた設置 フンの流れを把握 町+PJ	星空わんさつ会 ねえ (四季折々に) 学びのプログラム作り	スポンサー探し 基金箱の設置 まち協 ロゴの活用 PJ	

鯉光協会 小青年英英語 元報(町)
社協お便り

2. 新しい市街地におけるコミュニティづくり

復興公営住宅や防災集団移転団地など新しい住宅団地のコミュニティの活性化に向け、交流会や移動交流会（外出支援活動）の開催を通じて支援した。特に、コミュニティの一体化に向けて復興公営住宅入居者と防災集団移転団地の住民とがともに参加できるイベントを開催、両者が互いに顔を合わせ、コミュニケーションを深められる場を提供した。

本活動は、以下の助成事業・補助事業の一環として実施したものである。

<財源>

- ・仙台銀行まちづくり基金助成金（4月～11月）
- ・東日本大震災現地 NPO 応援基金[緊急助成]新型コロナウイルスの影響を受ける
現地 NPO 支援助成（6月～12月）
- ・みやぎ地域復興支援助成金（宮城県地域復興支援課）（6月～2月）

①志津川中央復興公営住宅にておはなし会

（別紙報告参照）

日 時 8月25日（火）9：30～10：30

会 場 志津川中央復興公営住宅集会所
（南三陸町志津川字新井田地内）

参加者 9名

内 容 南三陸町震災復興祈念公園について、10月に予定されている植樹会に向けた取り組みについて話し合いました。復興公営住宅入居者からも、活動に参加いただけることになりました。



②戸倉復興公営住宅にておはなし会

（別紙資料参照）

日 程 11月9日（月）9：30～10：30

会 場 戸倉復興公営住宅集会所（南三陸町戸倉字津野 50-17）

参加者 12名

内 容 全面開業した南三陸町震災復興祈念公園についてパネルを使って情報提供。参加者はどなたもまだ公園に行かれたことがないとのこと。移動手段がない方のために、公園を見学できる機会が必要であることが確認できました。



③椿のたねっこ拾いバスツアー

（別紙資料参照）

日 程 10月30日（金）10：00～14：30

会 場 志津川中央復興公営住宅集会所（南三陸町志津川字新井田地内）発着

上山八幡宮（志津川地区）～袖浜恋人岬
（志津川地区）～津龍院（歌津地区）～
松のや（昼食・入谷地区）～
南三陸町震災復興祈念公園

参加者 18 名



コロナ禍を受け、1 回あたりの参加人数は少なくなる傾向があったが、最低限の交流の場の維持にはつなげることができたと考えている。

ただし、年度後半から、復興公営住宅集会所の活用が難しい状況となった。本来は住宅自治会が管理しているものであるが、実質的に管理している社会福祉協議会の意向が無視できなくなっている状況になっている。

一方、住戸に閉じこもりがちになっている方の生活課題（身体的・精神的健康等）は孤立という要素が加わることで、より複雑になっていっている。ワクチンの復旧も見越しながら、集会所に限らない交流の場の創出に今後も努めていきたい。

南三陸 **椿**ものがたりシリーズ

中央公営住宅にて
おはなし会

今回は 中央公営住宅の
集会所で 久しぶりに
おはなし会を開催しました



今回は photo 撮り忘れも
イラストのみです
2020
8.25(水)
9:30~10:30

お茶を飲むことは



コロナ感染症対策の一環として
控えましたが

ペットボトルのほうじ茶をプレゼント

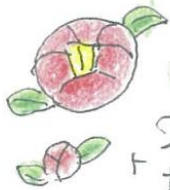
各自の責任のもと 水分補給をして頂きました



今回のおはなしの内容は
10月中旬に全体園予定の
南三陸町震災復興記念公園について。



よるく
↑椿油を
お渡ししました



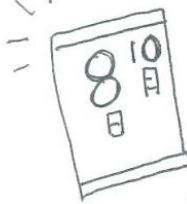
2012年から 町民のみなさんと積み重ねてきた
「椿はな咲くまちづくり」を いよいよ実現する時が

まきました

公園は 6ヘクタール。そのうち 1.5ヘクタールに

「みらいの森」が つくられます。そこに **43本の椿**を

植樹します！ 日には **10月8日(木)**です **決定!**



これまで 椿の活動に参加して下さいました方で、

植樹に参加可能な方は、



木のプレート

詳しくは 後日 該当者にご連絡いたします

お楽しみにお待ち下さい

〈復興みなさん会〉



この事業は「みやぎ地域復興支援助成金補助事業」として開催します

椿はな味く おちづくり お話会の ご案内

主催(一社)
復興みなさん会

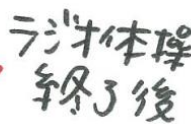
みなさんこんにちは 
秋ま、さかりのこの時期は
おいしい味覚が沢山ですね!
今年はさつま芋が豊作のようです
さて、以下の日程で
お話し会を開きます 
10月12日に全体開園した
祈念公園の大きなパネル(写真)を
みながら、公園に植樹した
椿のお話などします 
最近の様子もおしえて下さい。

コロナを防ぐための

お願い

・当日、体調の
すぐれない方
発熱のある方は
ご遠慮下さい

・飲食は控えめの
持参する茶菓子
はお土産にして
お持ち下さい

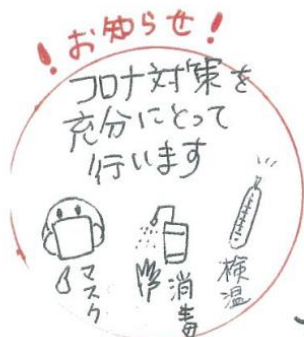
11月9日(月) 9:30~ 

はしよ 戸倉公学住宅集会所 エムかわ
(天候により、室内にて行います)

※コロナ対策として、検温、マスク、消毒の実施を行います※

この活動は、みやぎ地域復興支援助成金(宮城県)を活用しています

椿のたねっこ拾い



*体調不良の時は
ご遠慮下さい

バスツアーのご案内

主催 (-社)

復興みなさん会
南三陸椿くらぶ

みなさん こんにちは
長かった夏もおわり

一気に秋めいてまいりました

今年も椿のたねっこ拾いバスツアーを
開催します (先着15名様)

町内の椿のたねっこ拾い

避難路や祈念公園に植える

苗木を作ります 椿油もとれるかな?

ぜひご参加下さい

日時

10月30日(金)

AM 10:00

~ PM 2:30(予定)

集合... 中央公営住宅集会所前に 9:50まで!!

検温します

◇ 参加費 500円(昼食代) ... 当日集めます

◇ 申込方法 ... 以下の用紙にご記入の上、集会所の専用ボックスへ!!

◇ 当日のルート ... 町内の椿の名所を巡ります お昼は入谷の ばっかり茶屋です

申込用紙(キリル)

おなまえ

連絡先(TEL)

生年月日

その他の情報

2020-10-30

椿の
たねっこ
ひろい
バスツアー

3. 復興まちづくりに関する情報発信事業

上述のような各地域の取り組みや町の復興状況、当会の活動内容等を、月1回発行の「南三陸復興まちづくり通信」に掲載・情報発信した。毎号約1,000部発行し、支援対象復興公営住宅の入居者に全員に配布した他、行政・社協等の関係機関、外部支援者等にも読んでいただけるようにした。

本活動は、以下の助成事業・補助事業の一環として実施したものである。

<財源>

- ・仙台銀行まちづくり基金助成金（4月～10月）
- ・みやぎチャレンジプロジェクト助成金（宮城県共同募金会）（4月～10月）
- ・おらほのまちづくり支援事業補助金（南三陸町企画課）（6月～2月）
- ・みやぎ地域復興支援助成金（宮城県地域復興支援課）（4月～2月）
- ・東日本復興支援事業助成金（中日新聞社会事業団）（4月～3月）

① 4月 第70号発行

内容 新型コロナウイルス影響深刻 小中高臨時休業
町大震災追悼祈念式典中止 地域経済にダメージ
中日新聞社会事業団様から助成いただきました
ホテル観洋で全国語り部シンポジウム in 東北／戸倉復興公営集会所でけんちん汁交流会
多賀城市で第3回大規模災害公営住宅自治会交流会
自然環境活用センターでオープン記念シンポジウム

② 5月 第71号発行

内容 国道45号復旧工事歌津中心部で1キロ開通
南三陸署歌津駐在所新築移転し開所式／伊里前小学校 新体育館で入学式
山元町「つばめの杜公園管理会」と意見交換会／気仙沼合庁で県助成金活動報告会

③ 6月 第72号発行

内容 国道398号が新・折立橋で国道45号と接続！／商工会館完成 5月7日から業務開始！
新型コロナの影響で公営住宅の住民交流がストップ
～「3密」回避で集会所利用休止 お茶会も中止～
入谷公民館新築工事順調 9月頃オープンの予定
平成の森林間広場 天然芝のグラウンドで復旧！／伊里前川のシロウオ漁 今年は豊漁！

④ 7月 第73号発行

内容 緊急事態宣言 49日間で全面解除！移動自粛を段階的に緩和 町内小中校夏休み3分の1に
神割崎キャンプ場再開 アウトドア派に人気
ハマーレ商店街前に芝生の憩いの広場を整備！
教訓を後世に伝えよう！チリ地震津波資料展
コロナに負けないぞ！ 3密回避であおぞら会議／復興みなさん会が社員総会

⑤ 8 月 第 74 号発行

内容 南三陸町に海に見えるワイナリー 9 月オープン！
南三陸警察署庁舎 来年 2 月完成へ工事順調！
「歌津地区復興支援の会一燈」がネットワーク会議
「密」避けて屋外でラジオ体操 気分爽快！
復興祈念公園に植樹予定の樺の苗を植え替えました
高台移転みねはた団地で早朝草刈り作業

⑥ 9 月 第 75 号発行

内容 南三陸町震災復興祈念公園 10 月全体開園／地域活動の拠点完成！ 新入谷公民館開館
志津川中央復興住宅で「樺のお話し会」／木の家づくり互助会 7 月定例会
グラウンドゴルフで地域交流会

⑦ 10 月 第 76 号発行

内容 木の家づくり互助会メンバーが奥会津を訪問
リモートワークやワーケーション向け住宅を視察！
平成の森林間広場天然芝グラウンドが供用開始！
志津川西復興住宅集会所で「たがい市」
曹洞宗の和尚さんが寄木高台団地で交流会
高台移転団地住民が共同で梅干し作り

⑧ 11 月 第 77 号発行

内容 鎮魂と伝承 新たな一歩 南三陸町震災復興祈念公園が全体開園
商店街と公園をつなぐ中橋も開通！
西宮ロータリー会員らが祈念公園にツバキ苗を植樹
南三陸ワイナリー醸造施設完成 ショップもオープン
コロナに負けない！ 地域に寄り添う団体紹介
第 1 回 特定非営利活動法人ウィメンズアイ（WE）

⑨ 12 月 第 78 号発行

内容 樺のたね拾いバスツアーでふるさと巡り／高台移転団地集会所で「小さなたがい市」
志津川東復興住宅で“秋の芋煮会／高台移転団地で干し柿づくり
コロナに負けない！ 地域に寄り添う団体紹介
第 2 回 一般社団法人 カリタス南三陸

⑩ 1 月 第 79 号発行

内容 令和 2 年度復興庁「新しい東北」復興・創生顕彰 一般社団法人復興みなさん会が選ばれる！
伊里前国道 45 号が迂回路から新ルートに切り替え
山元町「つばめの杜公園管理会」が来町 意見交換会
戸倉復興公営住宅で「樺のお話し会」

高台団地で「なつかしい昭和 昔を語る会」開催
「歌津地区支援の会一燈」がネットワーク会議

⑪ 2月 第80号発行

内容 「道の駅さんさん南三陸」着工！来春開業へ祈願祭
災害公営住宅で「みんなのクリスマス会」
ハマーレ歌津で年末恒例「歌津あわび祭り」／震災復興祈念公園内に小学生らが植樹
震災前の志津川の街並みを再現した模型の展示会
ひころの里「松笠屋敷」で茅葺屋根の葺き替え完了

⑫ 3月 第81号発行

内容 東日本大震災10年 鎮魂と地域再生へ祈り深く ベイサイドアリーナで追悼式典
南三陸警察署新庁舎完成 3月22日業務開始
戸倉地区に追悼の場完成 きぼうの桜植樹式
復興みなさん会 「新しい東北」復興・創生顕彰受賞！ 仙台サンプラザで顕彰式開催

<実施結果の情報発信支援を行った催事>



神割崎キャンプ場再開 アウトドア派に人気
(復興まちづくり通信 第73号掲載)



6/17 「歌津地区支援の会一燈」が
ネットワーク会議
(復興まちづくり通信 第74号掲載)

「密」避けて屋外でラジオ体操 気分爽快！
(復興まちづくり通信 第74号掲載)





6/28 高台移転みねはた団地で
早朝草刈り作業
(復興まちづくり通信 第74号掲載)



7/27 木の家づくり互助会7月定例会
(復興まちづくり通信 第75号掲載)



7/20 グラウンドゴルフで地域交流会
(歌津復興交流センター 芝生広場)
(復興まちづくり通信 第75号掲載)



9/16 平成の森林間広場
天然芝グラウンドが供用開始！
(復興まちづくり通信 第76号掲載)



9/14 木の家づくり互助会メンバーが奥会津を訪問
リモートワークやワーケーション向け住宅を視察！
(復興まちづくり通信 第76号掲載)



9/18 志津川西復興住宅集会所で「たがい市」

9/9 曹洞宗の和尚さんが寄木高台団地で
交流会

(復興まちづくり通信 第76号掲載)



高台移転団地住民が共同で梅干し作り
(みねはた団地)

10/5 南三陸ワイナリー醸造施設完成
ショップもオープン

(復興まちづくり通信 第76号掲載)

(復興まちづくり通信 第77号掲載)



10/9 高台移転団地集会所で「小さなたがい市」
(戸倉沖田の防災移転団地集会所)

10/1 志津川東復興住宅で“秋の芋煮会”

(復興まちづくり通信 第78号掲載)



10/28 高台移転団地で干し柿づくり
(みねはた団地)
(復興まちづくり通信 第78号掲載)



11/10 「なつかしい昭和 昔を語る会」開催
(みねはた団地)
(復興まちづくり通信 第79号掲載)



10/21 「歌津地区支援の会一燈」が
ネットワーク会議
(復興まちづくり通信 第79号掲載)



12/22 災害公営住宅でみんなのクリスマス会
(南三陸町社会福祉協議会などが主催)
(復興まちづくり通信 第80号掲載)



12/20 ハマーレ歌津で年末恒例
「歌津あわび祭り」
(復興まちづくり通信 第80号掲載)



12/21～23 震災前の志津川の街並みを
再現した模型の展示会

2/22

戸倉地区に追悼の場完成 きぼうの桜植樹式
(復興まちづくり通信 第81号掲載)



復興まちづくり通信については、当会のホームページにも掲載して情報発信した。その成果として、遠方の支援者から展示に活用したい(伏見地区労働組合協議会 2/23 等)といった照会をいただく等、町の復興に関する情報発信に寄与することができた。

4. 関係主体との情報交換・連絡調整

①歌津地区復興支援の会一燈 ネットワーク会議参加

当会の役員が、ネットワーク会議に参加し、情報共有した。全町的に発信すべき情報があった際には、「南三陸復興まちづくり通信」に掲載して情報発信した。

②木の家づくり互助会 定例会参加

③志津川地区まちづくり協議会・かもめの虹色会議 参加

南三陸町復興祈念公園の運営について協議する機会を持ち、連携が更に深まった。

④NHK からの取材依頼対応

9月6日（日）放送の番組制作に向けた取材協力依頼があったが、当会の活動趣旨とは合致しなかったことから、協力不成立となった。

⑤東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻からのヒアリング対応

第1回

日程 9月11日（金）

場所 東北圏地域づくりコンソーシアム内

対応 高田会員

第2回

日程 10月23日（金）

場所 上山八幡宮社務所内

対応 後藤代表理事、及川理事、畠山理事、工藤理事

⑥JCN ツアーin 東北 2020「答えは東北にある！」取材対応

取材日時 10月27日（火）

取材場所 上山八幡宮社務所内

対 応 工藤理事

内 容 JCN が主催するバーチャルツアーの動画素材収録対応

⑦公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構からのヒアリング対応

日程 11月24日（火）

方法 メールによるデータ送付

内容 復興庁「東日本大震災復興の教訓・ノウハウ集」収録のための事例収集

対応 高田会員

⑧宮城県サポートセンター支援事務所からの原稿執筆依頼

内容 「東日本大震災 宮城県民100の提言」への原稿執筆

対応 後藤代表理事

⑨「新しい東北」復興・創生顕彰受賞

日時 2月22日(月)午後

会場 仙台サンプラザ(仙台市宮城野区榴岡)

対応 後藤代表理事、工藤理事、高田会員



5. 団体運営に関する事項

(1) 総会の開催

定時社員総会を以下の通り開催した。

日時 6月21日(日) 16:05～17:00

会場 南三陸まなびの里いりやど 会議室(南三陸町入谷字鏡石)

内容 2019年度活動報告、決算について
2020年度活動計画、予算について
役員改選について

(2) 理事会の開催

①第1回理事会

日時 6月5日(金) 13:10～13:40

会場 上山八幡宮 社務所

内容 総会提出資料について
役員改選について
監査、総会日程について

②第2回理事会

日時 6月21日(日) 17:00～17:10

会場 南三陸まなびの里いりやど 会議室(南三陸町入谷字鏡石)

内容 代表理事の選定について

(3) 例会の開催

事業の進捗に関する情報共有・協議のため、理事や会員が参加する例会を以下の通り、13回開催した。例会の開催回数は2011年度から通算で200回となった。

6月5日(金)、7月2日(木)、7月30日(木)、
8月7日(金)、8月31日(月)、9月7日(月)、
9月25日(金)、10月13日(火)、10月29日(木)、
12月7日(月)、1月25日(月)、2月2日(火)、
3月4日(木)

定例会の様子



(4) 団体情報の発信

当団体の事業・運営に関する情報については、以下のホームページにて適宜情報発信した。

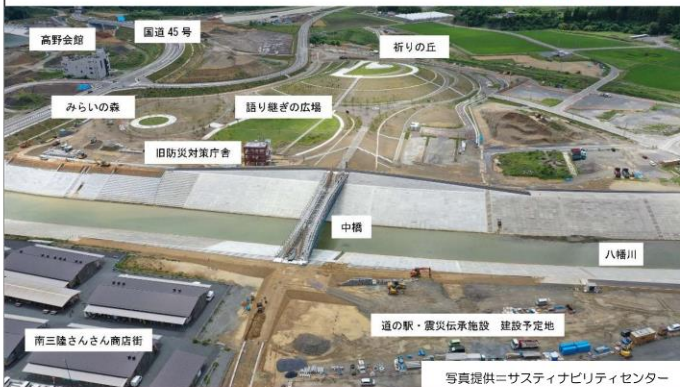
<http://tohokuconso.org/common/minasan/index.html>

(以上)

令和2年度「新しい東北」復興・創生顕彰 受賞者

①被災したコミュニティの再生・再構築

- ・避難所～二次避難所～仮設住宅
～災害公営住宅・防災集団移転団地
何度も組み変わるコミュニティ
- ・話し合い／交流の場づくり
～自治会組織の設立支援
～設立された自治会への**伴走支援**



②被災元地の再生・活性化

- 南三陸町震災復興祈念公園**
～町民参加の仕組みづくり～
- ・震災前にはなかった規模の都市公園～管理ノウハウ・資源の不足
→町民と役場の協働の場に

一般社団法人復興みなさん会 取組活動紹介

①

令和2年度「新しい東北」復興・創生顕彰 受賞者

復興みなさん会 活動のあゆみ (2011年～2018年)



一般社団法人復興みなさん会 取組活動紹介

②

①南三陸町震災復興祈念公園
椿の植樹祭 (2020.10.8)

- 10月12日の本格開園前、南三陸町震災復興祈念公園内「みらいの森」エリアに椿苗43本を寄贈・記念植樹した。
- 今後は、町民参加型で公園を維持・管理していく仕組みづくりへ



②コロナ下での住民活動のサポート



- せっかく始まった町民活動が止まってしまうように伴走支援を継続
お茶会・外出支援

一般社団法人 復興みなさん会

実施地域：本吉郡南三陸町

所在地：本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮社務所内
電話：070-5472-5930（事務局）
メール：minasan.msrrk@gmail.com
HP：http://tohokuconso.org/common/minasan/

総合タイプ② 復興公営住宅コミュニティを地域に開き、 支え手を増やしていくための交流促進支援事業

活動の背景やきっかけ

南三陸町内に整備された8つの復興公営住宅では、住民自治会や外部支援者、住民有志のサークル等による交流機能が一定程度根付いてきている。ただ、同じ参加者による交流が一定期間続いてきていることで新しい参加者や外部との連携に消極的で交流の輪が閉じつつある場も出てきている。外部支援も次第に収束に向かう中、住宅内の担い手も限られており、このような地域の交流機能を持続可能な形で維持していくことが課題となっていた。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により、住民活動が委縮していく傾向が見られた。

実施した活動と助成金をどのように使ったか

（1）復興公営住宅と防災集団移転団地や既存住宅地が連携した交流の場づくり

復興公営住宅単独ではなく周辺の防災集団移転団地や既存住宅地と連携した交流の場づくりを進めるため、手仕事を行うサークル活動（椿くらぶ）や、コロナ禍を受けて止まってしまった住民活動を再開するきっかけとしての「椿はな咲くまちづくりお話し会」、外部支援者をコーディネートした交流会等の活動を行った。

2020/11/9 戸倉地区の椿はな咲くまちづくりお話し会



（2）復興公営住宅入居者の活動を地域に開いていくきっかけづくり

志津川地区中心部に開園した町の震災復興祈念公園の運営に復興公営住宅入居者が関わっていくきっかけとなるように、復興祈念公園を見学していただく移動交流会や、植樹する苗の整備作業等を行った。

2020/10/30 志津川中央地区の移動交流会



（3）「復興まちづくり通信」の発行・配布

（1）（2）の活動の様子を取材しまとめた「復興まちづくり通信」を毎月1,000部発行し、情報発信した。

活動を通じた成果、地域・住民の変化は

（1）復興公営住宅と防災集団移転団地や既存住宅地が連携した交流の場づくり

計7回の交流機会を提供することができた。コロナ禍を受け1回あたりの参加人数は少なくなる傾向があったが、最低限の交流の場の維持にはつなげることができた。

（2）復興公営住宅入居者の活動を地域に開いていくきっかけづくり

震災復興祈念公園に関わる交流機会を6回提供することができた。特に公園をフィールドとして実施した活動には、コロナ禍にも関わらず多くの参加者にお越しいただくことができ、今後に向けた手ごたえを感じることができた。

（3）「復興まちづくり通信」の発行・配布

予定通りの発行・配布を通じて、新型コロナウイルス感染症の影響の中でも、地道に展開されている町民活動の様子を発信し、他地区での活動再開を促すことができた。

今後の活動や目標

年度後半から、復興公営住宅集会所の稼働がほぼ止まってしまった。住戸に閉じこもりがちになってしまった方の生活課題（身体的・精神的健康等）は、孤立という要素が加わることでより複雑になっていっている。ワクチンの復旧も見越しながら、集会所に限らない交流の場の創出に今後も努めていきたい。

震災復興祈念公園については、多くの人手が必要な公園の管理運営に寄与できるということに加えて、復興公営住宅入居者が町の復興に貢献することができる＝復興の主体となることができるという要素を大切にしながら、当事者の心の復興につなげていきたい。

7-1 被災者支援（応急仮設住宅等におけるコミュニティの形成）

事例名	住民が主体となって取り組むコミュニティの再生「復興みなさん会」
場所	宮城県南三陸町
取組時期	応急期・ 復旧期 ・ 復興前期 ・ 復興後期
取組主体	一般社団法人復興みなさん会 一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム

取組概要：

宮城県南三陸町では、2011年10月、町民有志による「復興みなさん会」が設立され、地域の暮らしを支えてきたコミュニティの再構築が町の復興を進める礎になるという信念のもと、応急仮設住宅や災害公営住宅でのコミュニティの再生に向けた活動を行っている。

具体的内容：
■復興みなさん会の設立

宮城県南三陸町では、多数の住民が複数回の避難行動や長期にわたる応急仮設住宅での生活を余儀なくされ、これまで地域の暮らしを支えてきた人と人とのつながりが大きく損なわれた。このような現状を受け、住民同士の絆の再生やコミュニティの再構築が町の復興に向けた大きな礎になるという信念のもと、2011年10月に町民有志による「復興みなさん会」が設立された。2014年5月には一般社団法人化し、コミュニティの活性化に向け活動を継続している。

一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアムは、地域での研修や交流会の開催、OJT的支援、情報発信、各種コーディネート等を通して、「復興みなさん会」の活動を後方支援している。

■応急仮設住宅等でのコミュニティづくり

応急仮設住宅では、どの住戸に誰が住んでいるのかわからず、自治会の設立が難航した。「復興みなさん会」では、会員が入居者の戸別訪問を行い、そこで得られた世帯主名や元の居住集落・地区名の情報提供について承諾を得られた世帯を掲載した「住宅マップ」を作成し、配布した。また、応急仮設住宅に自治会が設立されるようになると、自治会と連携してお茶会や植栽活動、復興の最新情報を学ぶ「復興てらこ屋」等の活動を行い、住民間の交流やコミュニティの形成を支援した。

2012年度から始まった「椿はな咲くまちづくりお茶会」は、“復興の話し合い”だと参加しにくいと感じている女性や高齢者でも自由に話ができて、気軽に参加できるお茶会として始められた。時には、住民の声を聞くためにワークショップ形式をとることや復興まちづくりの情報提供が行われることもあり、幅広い立場・世代の住民が復興まちづくりに関わる機会にもなった。

また、同年度に、津波からの避難路沿いに椿を植えて避難の際の目印とする「椿の避難路づくり」も始まった。椿の苗の植樹・育樹はもとより、種から採れる椿油を使った料理を楽しむ交流会、遠方に避難している町民に町の復興の様子を見てもらう「椿お花見バスツアー」など様々な活動につながっていた。



2012 年 3 月 1 日「復興てらこ屋」神戸の復興から学ぶ
(提供：一般社団法人復興みなさん会)

■災害公営住宅でのコミュニティづくり

2014 年に入ると、災害公営住宅の入居予定者が決まり始めた。そこで、町役場や社会福祉協議会、復興に関わるコンサルタント等と連携しながら、入居予定者の事前交流会「くらしの懇談会」（入居 1 年半前、1 年前、半年前）の開催や、災害公営住宅の自治会の設立や地域コミュニティの形成支援が行われた。

例えば、災害公営住宅である入谷復興住宅では、入居者に地元出身者が少なく、土地勘がない住民が多いことがわかったため、住宅周辺の店舗や施設等の地域情報をまとめた「入谷お役立ちマップ」を作成した。マップ作成には、復興住宅周辺の住民も参加し、入居者同士の交流の機会だけでなく入居者と周辺地区の住民が交流する機会にもなった。

また、災害公営住宅への入居を前にして、これまで引越の経験がない住民から不安の声が出たことをきっかけに、すでに災害公営住宅に入居した人の体験談を聞き、引越の極意を学ぶ交流会を企画したり、災害公営住宅入居後も住民の交流が途切れないよう交流会や外出支援活動（移動交流会）を開催したりするなど、さまざまな活動に取り組んでいる。

■町民参加による南三陸町震災復興祈念公園の管理・運営に向けて

2019 年には、南三陸町震災復興祈念公園を住民参加型で管理・運営していく方法を検討するため、まちづくり協議会等ほかの住民団体と連携し、復興祈念公園をフィールドとして町民ができること・実践してみたいことを共有するワークショップを開催した。

2020 年 10 月に復興祈念公園が本格開園することを受け、「椿の避難路づくり」の一環として、公園の一部に町民参加で椿の植樹を行うイベントを開催、多様な町民が公園に関わることができるよう、きっかけづくりが進められている。

南三陸 復興まちづくり通信

第70号（令和2年4月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

新型コロナウイルス影響深刻 小中高臨時休業 町大震災追悼祈念式典中止 地域経済にダメージ

新型コロナウイルス感染症の広がりにより、南三陸町内にも大きな影響が出てきています。

町内の小学校・中学校・高等学校は3月2日から春休みに入るまでの間、臨時休業となっています。卒業式や入学式は行われていますが、地域住民の参加がなくなる等、規模は縮小されています。

公民館や図書館等すべての社会教育施設で閉館が続いています。このうち図書館については3月24日から図書の貸出のみ再開となりました。

3月11日に予定されていた東日本大震災追悼式典は中止となり自由献花方式に変更となりました。

その他多くの行事・イベントも中止・延期となり、活動自粛によって観光や飲食業などではキャンセルが相次ぎ、地域経済にも深刻なダメージが広がっています。

このような時だからこそ、むやみに恐れるのではなく、正しい情報を共有して正しく恐れ、身を守る対策をきちんとしながら、この難局をみんなで乗り切っていきましょう。



事業内容を紹介する冊子に掲載いただきました

中日新聞社会事業団様から助成いただきました

社会福祉法人中日新聞社会事業団様より、当会の活動に支援金をいただけることとなりました。中日新聞・東京新聞の読者を中心とした企業・個人の皆様から寄せられた寄付金の中から助成いただいたものです。多くの皆様のご善意に心から感謝申し上げます。

いただいた助成金は南三陸町復興祈念公園に多くの町民が関わる仕組みづくりや、この10年間の活動の記録誌の編集等に活用いたします。

ホテル観洋で「全国語り部シンポジウム in 東北」

災害の被災地で活動する「語り部」の役割を考える「全国被災地語り部シンポジウム」が2月24・25の両日、志津川ホテル観洋を会場に開催され、東北や関西などで活動する関係者が参加しました。

語り部の未来をテーマにしたパネルディスカッションでは、復興みなさん会の後藤一磨代表がコーディネーターを務め、約400人が耳を傾けました。

2日目の事例発表では、みなさん会の工藤真弓さんが椿をテーマにした活動について報告（＝写真）しました。



戸倉復興公営集会所でけんちん汁交流会

戸倉復興公営住宅の集会所で2月17日、復興みなさんが主催する交流会「**椿油**でけんちん団子を作ろう」が開かれ、入居者など17人が参加しました。朝の体操をした後、調理を開始。**椿油**を使って大根、人参、ゴボウなどの野菜やキノコの入ったけんちん団子を作り、和やかに会食しました。出来上がるまでの間は、犬棒カルタやシルバー川柳カルタをして楽しみました。**椿油**は昨年秋に町内で拾ったタネから絞ったもので、12kgから20採れました。



(意見を発表する佐々木守さん)

多賀城市で第3回大規模災害公営住宅自治会交流会

岩手、宮城両県に整備された大規模災害公営住宅（100戸以上）の自治会役員を対象とした交流会が2月11日、多賀城市鶴ヶ谷の災害公営住宅集会所で行われ、支援者を含めて約100人が参加しました。両県の連携復興センターと岩手大学三陸復興・地域創生推進機構が共催したもので、南三陸町からは志津川中央公営住宅自治会の佐々木守会長と庶務の西條優也さんが参加。役員の負担を減らすために自治会活動に関わる住民を増やす方策などについて意見を交わしました。

自然環境活用センターでオープン記念シンポジウム

震災で被災し、戸倉公民館（旧戸倉中学校）の2階を改修して復旧した南三陸町の自然環境活用センターで2月1日、オープンを記念するシンポジウムが開かれ町民約100人が参加しました。センター研究員の阿部拓三さんが志津川湾の自然環境について紹介（＝写真）した後、町内の小中学生で組織する南三陸少年少女自然調査隊メンバーの活動や戸倉小学校6年生による海での体験活動、志津川高校自然科学部の干潟調査などの発表がありました。



【あとがき】

二十四節季の暦の上では、清明を迎え、万物に清く明るく新しい春の陽気の降り注ぐ頃となりました。いつもなら、ああそういう季節だなあと、ふつくと膨らんだ桜の花芽を仰ぎ見ながらそう思うのですが、今年の春は、その景色もどこか切なく感じられます。新型コロナウイルスの発生によって、当たり前に感じていた日々の途中で、誰もが戸惑い、立ちすくんでいます。一方、現代社会が生み出した地球温暖化によって、地球は悲鳴をあげ続けています。海洋プラスチックを減らすためにエコバックを持ち歩く位しか出来ない私達は、今、季節の巡りも味わえないほどの閉塞感を世界全体で感じていますが、もしかしたら、地球もまた、日々おなじような恐怖や不安を感じながら、この春を届けてくれているのかも知れません。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

当会は今年度、中日新聞社会事業団「東日本復興支援金」の支援をいただき活動しています。

南三陸 復興まちづくり通信

第 71 号 (令和 2 年 5 月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



(写真提供=ハマレ歌津)

国道45号復旧工事
歌津中心部で1キロ開通
ハマレのアクセス向上
歌津大橋と寄木橋も同時開通

東日本大震災で被災し、復旧工事が進められていた南三陸町歌津地区の国道 45 号の一部区間が工事を終え 4 月 8 日、供用を開始しました。開通区間は歌津大橋 (113 ㍓) から歌津中心部の拠点施設である商店街「ハマレ歌津」までの約 1 ㌔で、接続する寄木橋も同時に開通。商店街だけでなく、小中学

校や周辺の団地、復興公営住宅などへのアクセスも格段に向上しました。工事期間中は、迂回路に面していなかったため客足が鈍り苦戦していたハマレ商店街の店主たちからは喜びの声が上がっています。

気仙沼方面に向かう残り約 700 ㍓の区間は、今年度内の完成を目指して工事が続けられます。

南三陸署歌津駐在所新築移転し開所式

震災の津波で被災し、移転再建された南三陸署歌津駐在所が 4 月 1 日、業務を開始しました。現地であった開所式は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、小野寺彰彦署長ら署員 11 人のみが参加。駐在所の佐々木正弘所長が「地域の安全センターとしての役割を果たせるよう誠心誠意職務にまい進する」と決意を表明しました。

伊里前地区中心部にあった駐在所は津波で流失。新しい駐在所は、歌津総合支所や「平成の森」に近い海拔 20 メートルの高台に建設され、敷地面積は 329 平方㍓、建物面積は 106 平方㍓。佐々木所長と藤田諒祐巡查長が任務に当たります。



看板を掲げる小野寺署長 (左) と佐々木所長

伊里前小学校 新体育館で入学式

南三陸町内の小中学校で4月8日、入学式が行われました。伊里前小学校（菊田裕幸校長、児童122人）では、新1年生が2月末に完成したばかりの真新しい体育館で晴れの日を迎えました。マスク姿で入場した16人の新入生は、名前を呼ばれると元気に「はい」と返事をしました。式には在校生は参加せず、来賓の数も制限し、全員マスク着用で座席間隔を広く空けて行われました。新型コロナウイルスの感染拡大によって9日から再び休校となり、授業開始は5月7日からの予定です。



南三陸産材を使った新しい体育館での入学式の様子



山元町「つばめの杜公園管理会」と意見交換会

復興みなさん会のメンバー5人が3月19日、山元町を訪問し、つばめの杜中央公園を管理する「つばめの杜公園管理会」と意見交換をしました。震災復興祈念公園が今秋全面開園するのを見据え、先行事例である同管理会の取り組みを学ぶのが目的です。ワークショップや利用者アンケートなどを実施していることや、隣接する山下二小の児童と協働しての、ごみ拾いや樹木の生育調査、遊具点検などの活動事例など大いに参考になりました。公園も視察しました。

気仙沼合庁で県助成金活動報告会

県の「令和元年度みやぎ地域復興支援助成事業」の活動報告会が2月27日、県気仙沼合同庁舎で開催され、県北2市2町の15の助成団体が活動の成果を発表しました。復興みなさん会からは3人が出席。高田篤会員が、復興公営住宅入居者の引きこもりを防ぐ外出・交流支援事業について説明。①戸倉のマップ作り交流会②町の「モアイバス」を活用した外出支援③「復興まちづくり通信」の発行による情報発信など1年間の取り組みを発表しました。



（復興みなさん会のメンバーによる発表の様子）

【あしがき】桜の花がいたる所で満開の時を迎え、本来なら入学式や入社式で祝いモードのはずですが、世界は新型コロナウイルスの影響で大変な試練に直面しています。早く終息してほしいと願うばかりです。子供達にはまぶしい春の陽を浴びながら元気に飛び回る姿が似合います。浜では磯の開口になり、ヒジキやフノリが、早く採ってけるとばかりに伸びています。今年の磯はマツモが少なく、いつもの場所にはノロやツノマタ、アカハタなどの海藻がいっぱいでした。これも地球温暖化やエルニーニョ現象のせいでしょうか。船からのぞくと、澄み切った海の中にはカジメやワカメが見え、その根元にはツブヤクチバシカジカらしいのも。自然の恵み豊かな海里山に生んでくれた両親にあらためて感謝です。

当会は今年度、中日新聞社会事業団「東日本復興支援金」および宮城県共同募金会「みやぎチャレンジプロジェクト」のご支援をいただき活動しています。

南三陸 復興まちづくり通信

第 72 号 (令和 2 年 6 月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



(切り替えられた国道 45 号。右は折立橋と戸倉方面)

国道 398 号が新・折立橋で国道 45 号と接続！

国道 45 号から国道 398 号「戸倉復興道路」神割崎方面へ入る道路が 3 月 24 日に切り替わりました。国道 398 号の本線が完成、震災で落橋し新しく整備された折立橋の開通と合わせて国道 45 号につながりました。これまで、終点付近は折立橋の仮橋を渡る迂回路を利用しなければならず不便でしたが、今回の供用開始で神割崎キャンプ場や自然環境活用センター、海のビジターセンターなどへのアクセスが向上しました。走りやすくなりましたが、信号機がないので注意が必要です。

商工会館完成 5 月 7 日から業務開始！

南三陸商工会が志津川地区に建設を進めてきた「商工会館」が完成し、5 月 7 日に業務を開始しました。建設地は、志津川郵便局の東隣りで、鉄骨造り 2 階建て、床面積は 366 平方メートル。事務室や相談室、会議室、備品倉庫のほか、20 台分の駐車場が整備されました。佐々木正司事務局長以下 8 人の職員が業務に当たります。佐々木局長は「新型コロナウイルスの影響が深刻。早く通常の営業に戻るよう懸命に支援をしていきたい」と話しました。



新型コロナの影響で公営住宅の住民交流がストップ

～「3 密」回避で集会所利用休止 お茶会も中止～

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、町内の災害公営住宅では、交流会や健康づくりのラジオ体操などを自粛中です。NPO 団体などの来訪もなくなり、住民同士が親睦を深める機会が激減。被災者は新たなストレスを抱えています。高齢者の孤立や引きこもりも懸念されます。復興みなさん会も、残念ながら、3 月以降は活動を縮小しており、コロナの感染が収まるのを待ち望む毎日です。



入谷公民館新築工事順調 9月頃オープン予定

入谷公民館の移転新築工事が順調に進んでいます。入谷公民館では、館内でアスベストが検出され大研修室などが使用禁止となったため、新たに公民館を建設することになりました。

建設地は旧入谷中学校跡地です。木造平屋建てで、床面積は約400平方メートル。事務室やスライディングウォールで二分割できる大会議室、研修室2部屋のほか、調理実習室、印刷室、倉庫などが整備されます。9月頃にオープンの見込みです。



平成の森林間広場 天然芝のグラウンドで復旧！

歌津「平成の森」林間広場が天然芝のグラウンドとして復活しました。震災前に町内外から訪れる大勢のサッカーファンに愛された林間広場は、震災後は218戸のプレハブ住宅が建ち並ぶ南三陸町最大の仮設団地になり、大勢の被災者が暮らしました。

生涯学習課の担当者は「現在、芝の養生期間となっている。新型コロナウイルスの状況にもよるが、秋頃の利用開始を見込んでいる。サッカーやグラウンドゴルフなどに利用してもらいたい」と話しました。



伊里前川のシロウオ漁 今年は豊漁！

歌津伊里前川でシロウオ漁が盛んに行われています。昨年10月の台風による大水で「ザワ」と呼ばれるWの字型の石組みが流され、2か月ほどかけて作り直したという渡邊千之さん（71）は「今年は豊漁で期待していたが、コロナで需要も減って値段は昨年並み。シロウオまつりも中止になり残念」と話しました。河川堤防の工事もほとんど終わって、震災後初めてアユやウナギの稚魚、カジカなども遡上しているとのことでした。



【あとかき】

新型コロナウイルス感染症が地域社会に大きな影響を与える中、密閉・密集・密接の「三密」を避けるため交流活動が制限されてしまつて大変、とか、移動自粛により被災地を訪れる方が減り「語り部」による伝承活動ができなくて大変といったニュースが新聞・テレビを賑わせている。

確かに問題は本当に深刻で大変ではあるのだが、そう言い募るだけでは芸がない。そもそも被災地はこの間一度も安定などしてはいない。毎日目まぐるしく変化していく状況に、やっとこさつとこ追い付きながら、復興に向かつてきた経緯をもう一度思い出し、将来に目を向けてみたい。

とはいえ生活の基盤が大きく揺らぐような事が十年間に二回も起きるとは、まさに想定外。正直嫌気も差してくるが、じっくり腰を据えた実践を進めていきたい。

当会は今年度、中日新聞社会事業団「東日本復興支援金」、宮城県共同募金会「みやぎチャレンジプロジェクト」および仙台銀行まちづくり基金のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrb@gmail.com

南三陸 復興まちづくり通信

第73号（令和2年7月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

緊急事態宣言 49 日間で全面解除！ 移動自粛を段階的に緩和 町内小中校夏休み3分の1に

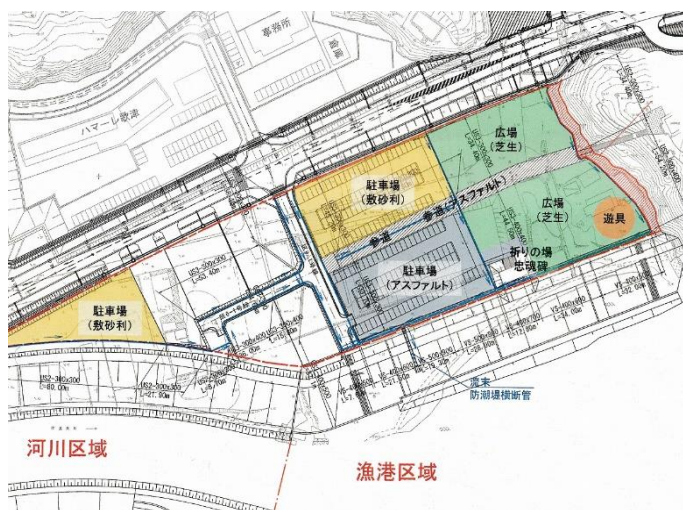
新型コロナウイルス特別措置法に基づく緊急事態宣言が5月25日、49日ぶりに解除されました。

6月19日には自粛を呼び掛けていた県をまたぐ国内移動が全面解禁。接待を伴う飲食店への休業要請も解除され、経済活動を本格的に再開する第1歩が踏み出されました。今後予想される第2波に備え、国民一人一人が油断せずに、3密の回避を心掛け、暮らしの場での感染拡大を防ぐ「新しい日常」を実践することが求められています。

南三陸町の小中学校では、今年の夏休み期間が短縮されます。新型コロナウイルスの感染拡大を受けた臨時休校で不足する授業日数を、長期休暇を短縮して確保するためです。夏休みは8月8日から18日までの11日間。プールの授業と小学生水泳大会も中止となります。部活動は当面の間、校内のみの活動に制限し、感染防止対策を徹底した上で行い、対外試合などは行われません。冬休みも4日間短縮し、12月26日から来年1月5日までです。

神割崎キャンプ場再開 アウトドア派に人気

神割崎キャンプ場が6月1日から営業を再開しました。6月18日までは第一段階ということで県内の利用客のみの限定で、それ以降は県外の利用者も受け付けています。予約人数を半分程度に抑えていますが、6月の土日の予約はほぼ埋まるなどアウトドア派に人気が高まっています。コロナの感染状況を見ながら8月からは通常の営業に戻していく予定です。リアス式海岸の景勝地「神割崎」での雄大な自然を満喫しながらのキャンプ（＝写真）は3密とは無縁です。



ハマーレ商店街前に芝生の憩いの広場を整備！

南三陸町は、東日本大震災で被災した歌津伊里前地区に芝生広場と駐車場を整備します。場所はハマーレ商店街と県漁協歌津支所の向かい側で、面積は1.1ヘクタール。5月27日に歌津総合支所で説明会が行われ、町が整備レイアウト案（＝左の図）を示し、住民と意見交換をしました。夏頃まで話し合いを重ね整備計画を決定。今年度中に敷地の盛土工事を行い、国道45号が完成後、令和3年度末までに広場の仕上げ工事を完了させる予定です。

教訓を後世に伝えよう！ 千り地震津波資料展

1960年5月の千り地震津波から60年。甚大な被害をもたらした災害の記憶を伝えようと、当時の写真や新聞記事、児童の手記などを集めた資料展（＝写真）が5月16日から31日まで、南三陸町生涯学習センターで開催されました。5月23日に南米千りで発生した津波が約1日かけて日本の太平洋沿岸に到達。旧志津川町では312戸が流失し、41人が犠牲になりました。（資料提供＝南三陸町図書館）



コロナに負けないぞ！ 3密回避であおぞら会議

コロナウイルス感染症対策で、3密を避け野外で会議をする人たちもいます。町民有志のまちづくり団体「かもめの虹色会議」のメンバー9人が5月30日、上山八幡宮の境内で初めての青空ミーティングを開催。テーマは震災復興祈念公園。コロナ後の新しい生活様式を見据えながら、町民ができること、続けていけることは何か？について意見交換。爽やかな風の吹き抜ける木陰での会議でした。

復興みなさんが社員総会

一般社団法人復興みなさんの定時社員総会が6月21日、入谷の「まなびの里いりやど」で開催されました。総会には、社員7名のうち6名が出席。2019年度の活動報告と決算が承認され、2020年度の活動計画と予算を決定しました。総会後の理事会で代表の選出が行われ、後藤一磨氏の留任が決定しました。

今年度新たに以下の助成金をいただき、コミュニティ再生のための活動を継続します。

- ・中日新聞社会事業団「東日本復興支援金」
- ・宮城県共同募金会みやぎチャレンジプロジェクト助成金
- ・みやぎ地域復興支援助成金（宮城県地域復興支援課）
- ・おらほのまちづくり支援事業補助金（南三陸町企画課）

具体的な活動としては、

- ① 椿はな咲くまちづくりお茶会、椿をテーマとした活動、
 - ② 新しい市街地におけるコミュニティづくり、
 - ③ 復興まちづくり通信の発行
- の3点をメインに、震災復興祈念公園の運営に町民が関わることのできる仕組みや機会づくり、植樹やクリーンアップキャンペーンなどの取り組みを行う計画です。

【あとかき】
新型コロナウイルス感染症拡大の影響で家にも多
りつきりという人も多
く、大勢の人が先の見え
ない自粛生活にストレス
を抱えています。
思えば震災後の年月は
ストレスとの戦いの日々
でした。かけがえのない
人との突然の別れ。家や
仕事を失った衝撃。過酷
な避難所生活とそれに続
く仮設住宅での不自由な
暮らし。一つの場所での
暮らしに慣れたと思った
頃にまた別の場所での新
しい生活が始まるという
常に不安定な暮らしぶり
を余儀なくされました。
自宅を再建した後、
幼い頃から馴染んだ暮ら
しぶりや見慣れた風景が
突然切り離されて、自
分の居場所ではないと感
じることさえあります。
コロナで住民同士の親
睦の機会も激減していま
す。コミュニティでのお
茶会などの交流の場がな
くなり、高齢者の孤立化
も懸念されます。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、宮城県共同募金会みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrbk@gmail.com

南三陸 復興まちづくり通信

第 74 号 (令和 2 年 8 月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

南三陸町に海見えるワイナリー 9月オープン！

南三陸ワイナリー（佐々木道彦社長）が志津川に開設する醸造施設の建設工事が 6 月 24 日に始まりました。醸造所は漁港近くの海辺に立つ加工施設を改修して整備。ワインの醸造棟、販売や軽食を提供するショップが設けられ、建具や壁には特産の南三陸杉が用いられます。敷地内には海を眺めながらワインや軽食を楽しめるテラス棟を新設します。全施設のオープンは 9 月の予定で、ブドウの栽培から醸造まで一貫する「南三陸」生まれのワインが誕生するのは 1 月の見込みです。



完成予想模型



(建設中の南三陸署。左奥は南三陸消防署＝6 月撮影)

南三陸警察署庁舎 来年2月完成へ工事順調！

東日本大震災の津波で全壊した南三陸警察署の移転新築工事が順調に進んでいます。新庁舎は、町が復興事業で整備した志津川新井田地内の国道 45 号沿いの造成地約 5,400 平方メートルを県が取得し、建設されます。鉄筋コンクリート 3 階建てで、延べ床面積は約 1,970 平方メートル。隣接地には昨年完成した南三陸消防署があります。完成予定は来年 2 月。震災から 10 年を前に、住民の安心・安全を守る防災、防犯の拠点が整います。

「歌津地区支援の会一燈」がネットワーク会議

歌津地区でコミュニティ支援活動を行っている「復興支援の会一燈」（小野寺寛会長、会員約 50 人）が 6 月 17 日、今年度第 1 回目のネットワーク会議を開催しました。会議には行政区長、契约会長、自治会長、小・中学校長など 19 人が出席。令和元年度の活動報告と決算、2 年度の活動計画と予算を承認しました。

震災で地区の集会所 13 ケ所のうち 8 ケ所が流失したことを教訓に、集落ごとに聞き取りを行い、避難行動冊子を作成し、後世に伝えることになりました。



「密」避けて屋外でラジオ体操 気分爽快！

新型コロナウイルス感染症予防のため、集会所の利用が停止されている町内の復興公営住宅では、屋外でのラジオ体操が盛んです。志津川地区の東公営住宅では、雨天を除く毎日朝8時45分に入居者らが集合。集会所前の広場で体操（＝写真）をして心地良い汗をかいています。自治会長の山岸るい子さんは「家に閉じこもっていると体が重く感じます。体操をすると気分が良いし、みんなが出てくるので交流できて楽しいです」と話しました。



復興祈念公園に植樹予定の椿の苗を植え替えました

復興みなさん会と南三陸椿くらぶのメンバー6人が梅雨の晴れ間の6月17日、志津川八幡神社の境内で椿の苗木の植え替え作業を行いました。震災後の2012年から町内で種拾いをして実生から育てた苗木は約150本。大きいものは120センチほどに成長しています。今後これらの苗木は、「椿の避難路」づくりの一環として、秋に全体開園する南三陸町復興祈念公園内にも、大勢の地域住民の参加をいただきながら植える予定です。

高台移転みねはた団地で早朝草刈り作業

歌津地区の高台移転「みねはた団地」で6月28日、草刈り作業が行われました。早朝5時から始まった作業には入居43世帯から41人が参加。国道45号から団地までの取り付け道路や団地内の道路脇の草刈り、5月にみんなで植えた花壇の雑草取りなどに汗を流しました。無事に作業を終え、見違えるようにきれいになった周囲を見て、みんな満足気でした。お盆前の8月にも作業が予定されています。



【あとがき】

3密を避けるための「新しい生活様式」が言われて久しい。それ以来復興公営住宅集会所への私たちの訪問も途絶えている。一緒にお茶を飲み、よもやま話をするのが楽しかった。「あのおばあちゃん、元気にしているかなあ」「あのお母さんの笑い声が聞きたいなあ」そんな思いが募る。

東日本大震災で学んだ「人と人の絆」はどこへ行ってしまったんだろう。そもそも人は独りで生きられない動物のはずなのに……。新しい生活様式は新型コロナウイルスの流行を止めるには効果があるのかもしれないが、私たちの掛け替えのない日常を奪ってしまった。

「GOTOキャンペーン」が始まる。早くみんなの顔が見たい。どこかに一緒に行ってみたい。いつもの何でもない日常が恋しいこの頃である。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrb@gmail.com

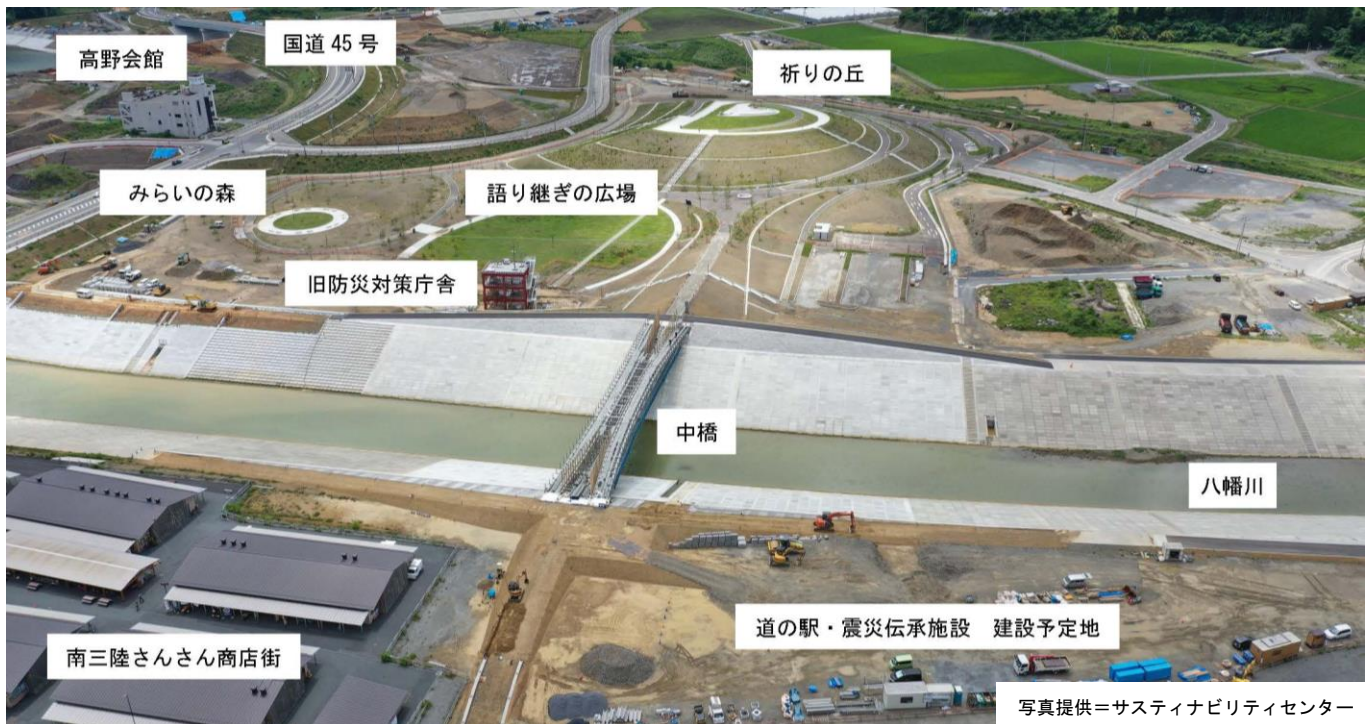
南三陸 復興まちづくり通信

第 75 号 (令和 2 年 9 月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



南三陸町震災復興祈念公園 10 月全体開園

南三陸町が志津川地区に整備を進めてきた震災復興祈念公園が 10 月に全体開園します。昨年 12 月に「折りの丘」と「復興祈念のテラス」周辺などが一部開園。3 月には「語り継ぎの広場」や「未来の森」など入園エリアが拡大されました。現在、

旧防災対策庁舎の周囲を含む八幡川沿いのエリアの整備が急ピッチで進められています。開園と同時に、公園と南三陸さんさん商店街を結ぶ中橋も通行可能になります。来年秋には商店街の隣接地に道の駅と震災伝承施設、J R 気仙沼線 B R T 駅などの公共交通ターミナルが開業する予定です。



地域活動の拠点完成！ 新入谷公民館開館

老朽化で建て替え工事が進められていた入谷公民館の移転新築工事が完成し 7 月 29 日、地域の住民約 50 人が出席し開館式が行われました。式の前にはテープカットが行われ、入谷ひがし幼稚園の子どもたちが歌や踊りを披露し、オープンを祝いました。

場所は旧入谷中学校跡地で、木造平屋建てで面積 400 平方メートル。面積と機能は旧公民館とほぼ同じですが、高齢者でも利用しやすいバリアフリー構造。駐車場も広くなり、災害時の避難所機能が強化されました。

志津川中央復興住宅で「椿のお話し会」

志津川中央復興公営住宅の集会所で8月25日、復興みなさん会主催の「椿のお話し会」が開かれ、入居者9人が参加しました。みなさん会のメンバーが、今年10月に全体開園する南三陸町復興祈念公園について、ドローンで撮影した航空写真を使って説明。植樹の計画や伝承活動について意見を出しあったほか、公園内での椿の植樹に参加することを決めました。マスク着用で3密を避けるなど、しっかりとコロナ対策をしながらの交流会でした。



木の家づくり互助会 7月定例会

町産材を活用した家づくりを推進している「南三陸木の家づくり互助会」の7月定例会が27日、戸倉波伝谷の「軽食ちょこっと」で開催され、11人が出席しました。新型コロナウイルス感染症流行下の建築業界の状況や、地方の現状と今後の見通しなどについて情報を共有したほか、戸倉地区に建設を予定している木の家のモデルハウスについて協議が行われました。

9月定例会は、福島県内の板倉長屋2か所（三島・磐梯）の視察ツアーを行うことになりました。



グラウンドゴルフで地域交流会

新型コロナに負けず、屋外での活動で楽しく過ごそうと「グラウンドゴルフ地域交流会」が7月20日、歌津復興交流センターの芝生広場で開催されました。歌津支援の会一燈が主催したもので、曹洞宗山形県第三宗務所ボランティア協議会の阿部龍男会長ら3人と地区住民の計30人が参加しました。山形から参加した木村嶺佑さんは「楽しいけど、難しい。機会があれば、またやってみたい」と話しました。終了後には、コロナ対策として屋外でお茶会をしました。



【雑感】

二十四節気では白露の候となり、朝露が葉っぱの上に白くコロンと見え始める頃。この日は、空の上で波比岐神（ナミヒキノカミ）さまが秋の波風を「まあまあまあ」と抑えるためにひと働きしてくるそうです。地球温暖化の影響を受け、季節の顔が豹変しているこの頃を想うと、波風の無い、「風」の状態が、一番難しく、幸せですね。

寄せ来る波風は程ほどに、穏やかに過ぎて欲しいと願うこの秋、南三陸町震災復興祈念公園が全体開園の運びとなり、中橋も通れるようになります。震災後、町の皆さんと種を拾って大切に育てていた椿の苗木は、公園内の「未来の森」に植樹します。椿のように遅く根を張って生きることを誓いながら、祈りを込めて植えたいと思います。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地 NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

南三陸 復興まちづくり通信

第76号（令和2年10月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成23年10月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



木の家づくり互助会メンバーが奥会津を訪問 リモートワークやワーケーション向け住宅を視察！

町産材を活用した家づくりを推進している「南三陸木の家づくり互助会」のメンバー7人が9月14日、板倉の家モデルハウス建設に先進的な取り組みをしている福島県への視察ツアーを行いました。

奥会津の三島町では、マイクロステイからの移住導入を目指す『一棟貸ヴィレッジ』2か所とリモートワーク対応の板倉長屋（＝写真左）などを見学。つるのIORI カフェ（＝写真右）で、一般社団法人奥会津 IORI 倶楽部の金親（かねおや）丈史事務局長か

らこれまでの活動実績と未来構想について説明を受けました。また、磐梯町では板倉の仮設住宅を移築再利用した町の定住促進住宅を訪問しました。

木の家づくり互助会では、今回の知見を参考にしながら、戸倉地区に今後建設を予定している木の家のモデルハウスについて、コロナ後を見据え、ワーケーションやリモートワークに対応できる「スモールシェアハウス」型住宅へと設計変更していく可能性もあるとしています。



平成の森林間広場天然芝グラウンドが供用開始！

歌津「平成の森」林間広場が天然芝のグラウンドとして復活し、9月から供用を開始しました。震災後、218戸のプレハブ住宅が建ち並ぶ南三陸町最大の仮設団地になり、大勢の被災者が暮らした広場は、再びサッカーやグラウンドゴルフファンに愛される生涯スポーツの拠点として生まれ変わりました。16日には、新型コロナのため取りやめとなっていた歌津グラウンドゴルフ協会の月例大会が9か月ぶりに再開され、町内外から34人が参加。“緑のじゅうたん”の上でプレイを楽しみました。

志津川西復興住宅集会所で「たかい市」

志津川西復興住宅の集会所駐車場で9月18日、NPO法人ウイメンズアイが主催する「小さなたかい市」が開かれました。屋外のテントには、お弁当や惣菜、まんじゅう、餅、団子、手作りパン、リンゴやブドウ、自然卵のクレープを売るお店のほか社協のフリーマーケットなど6店舗が出店。入居者や近隣の住民など63人が賑やかに談笑しながら買い物を楽しみました。受付では手指の消毒、検温、マスク着用のほか、連絡先の記入が求められました。



曹洞宗の和尚さんが寄木高台団地で交流会

山形県鶴岡市の曹洞宗の和尚さん3人が9月9日、歌津寄木地区の高台移転団地を訪れ、集会所で地域の住民と交流会を開催しました。住民たちが健康のために行っている百歳体操に飛び入り参加した後、懇談。1年ぶりの訪問とあって、お互いの近況やコロナの状況について伝え合うなど、和やかなひと時を過ごしました。参加者には鶴岡名物だだちゃ豆の菓子がプレゼントされました。マスク着用で3密を避けるなど、コロナ対策をしながらの交流会でした。



高台移転団地住民が共同で梅干し作り

歌津地区の防災集団移転みねはた団地で、梅干し漬けの共同作業が行われています。メンバーは団地の入居者で作る「いきいき会」（三浦みき子代表、会員15人）の会員で、梅干し作りは今年で3年目。お互いに声がけして団地集会所に集まり、梅の実のヘタ取り（＝写真）、塩漬け、土用干し、赤紫蘇の塩もみ、本漬けなどの作業に取り組んでいます。いつもと違い、コロナ対策をしながらの作業で、食事会やお茶会は残念ながら当分は自粛です。完成は11月です。



【雑感】

先日、道端に栗が落ちていました。靴の先で剥いてみると、ピカピカに光る栗色の実が熟れて食べ頃でした。ひと足早いお彼岸が来たようです。黄金色の稲穂も頭を垂れ、秋の訪れを告げています。四季の移ろいを感じながらも、コロナの脅威が頭から離れません。身近な病院や医療施設を訪れるたびに、受付の職員の方の心配りや、医療に従事している医師や看護師のみなさんのご苦勞を思い、ただただ感謝の念でいっぱいです。秋口になって、気温が下がってさらにコロナの感染が拡大するようになれば、オンラインでの面会なども行われるのとこの会など早く普通の生活に戻れることを願うばかりです。それぞれの職場で日夜働いている皆さん、健康第一でこの試験を乗り越えましょう。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

南三陸 復興まちづくり通信

第 77 号 (令和 2 年 11 月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

写真提供=サスティナビリティセンター



鎮魂と伝承 新たな一歩 南三陸町震災復興祈念公園が全体開園 商店街と公園をつなぐ中橋も開通！

南三陸町が志津川地区に整備を進めてきた震災復興祈念公園が 10 月 12 日に全体開園しました。式典には町職員や平沢勝栄復興大臣、村井嘉浩宮城県知事など約 100 人が参列。行方不明を含む 831 名の犠牲者を追悼し、後世への教訓を伝承する場になることを願い、旧防災対策庁舎前の献花台に花を手向けまし

た。昨年 12 月の一部開園以来、段階的にエリアを広げ、6.3 ㍊全体がオープンしました。開園に合わせて、南三陸さんさん商店街と祈念公園をつなぐ中橋の開通式も行われました。日本を代表する建築家、隈研吾氏の設計による 2 層のデッキが特徴的なウッドデッキ橋で、踏み板には南三陸杉が使われています。

西宮ロータリー会員らが祈念公園にツバキ苗を植樹

復興みなさん会が主催する「椿の植樹祭」が、全体開園に先立って 10 月 8 日に震災復興祈念公園で行われました。津波に耐えたツバキをまちづくりのシンボルにと企画されたもので、兵庫県西宮ロータリークラブの会員や南三陸椿くらぶ、志津川ライオンズクラブ、志津川中央復興公営住宅の入居者など約 40 人が参加。公園内の「みらいの森」に 1.5 ㍊ほどに育ったヤブツバキの苗木 43 本を植え、各自が南三陸杉で作られた記念のネームプレートを取り付けました。蕾が大きく膨らんでおり、来春の開花が楽しみです。



南三陸ワイナリー醸造施設完成 ショップもオープン

南三陸ワイナリー(佐々木道彦社長)の醸造施設が完成し10月5日、竣工式が行われ、ブドウの栽培から醸造まで一貫する「南三陸ワイン」の生産拠点の誕生を祝いました。施設は旧魚市場近くの施設を改修して整備。ワインの醸造棟や貯蔵庫、販売や軽食を提供するショップ(=写真)が設けられ、建具や壁には特産の南三陸杉が使われています。海を眺めながらワインや軽食を楽しめるテラス棟も新設。町の新たな観光拠点として期待されます。



コロナに負けない！ 地域に寄り添う団体紹介

第1回 特定非営利活動法人ウィメンズアイ(WE)

震災から9年7ヶ月。町内で活動が続けていらっしゃるウィメンズアイの栗林美知子さんにお話を伺いました。

—いつから、どのような活動を？

「NPO 法人としての活動は8年目。被災地の女性の活躍を支援するため、女性の視点を大切にして①コミュニティをサポートする活動、②女性が力をつける活動、③交流イベントなどを継続してきました。

—運営スタッフは？

「地元のスタッフ6人と東京にいるスタッフが3人。東京のスタッフとはオンライン会議です。」

—新型コロナの影響は？

「大事にしてきた『直接会う、集う』という活動が困難になり、活動自粛を余儀なくされました。3月、東京で開催予定だった『三陸ワカメ祭り』が中止になりましたが、販売予定だったワカメとパン・菓子工房 oui のパンを通信販売に切り替えたところ 200 件以上の注文があり完売。心強かったです。9月からは『小さなたがい市』などのように再開した活動もあり、喜ば



(事務局長の栗林美知子さん=入谷のオフィスにて)

れています。」

—コロナ時代にはどんな対応が必要ですか？

「今までのように実際に会って交流する機会と、ITツールを使った交流の場をうまく併用してやっていくことが大事だと考えています。」

—地域の人々へのメッセージは？

「外から来た自分たちは沢山学ばせて貰っている。受け入れてくれ、活動を手伝い協力して下さい。皆さんに感謝！仲間をもっと増やしたいです。」

【雑感】

震災から9年7ヶ月。志津川の元の中心市街地に南三陸町震災復興祈念公園が全面開園しました。これから町を訪れる方は、この公園に来れば震災の経験について見て学ぶことができると思われるでしょう。そのような期待に応えられる公園に育てていく責務が私たちにはあります。とはいえ公園の面積は6・3ヘクタールと広大です。今後、周辺に整備されていく緑地部分と合わせて、どうこの場を維持していくか。住宅地の中の公園とは違った管理の仕組みを考えないといけません。役場だけではなく、多くの町民・事業者がそれぞれできることを出し合って「協働」で公園を管理していく、そのための協議の場を生み出していくことが喫緊の課題となります。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地 NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

南三陸 復興まちづくり通信

第 78 号（令和 2 年 12 月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。



椿のたね拾いバスツアーでふるさと巡り

復興みなさん会が主催する「椿のたねっこ拾いバスツアー」が 10 月 30 日、志津川中央公営住宅の入居者など 18 人が参加して行われました。志津川上山八幡宮や袖浜の「北の恋人岬公園」、歌津館浜の津龍院の近くの道路脇で椿のたね拾いをしました。また、震災復興祈念公園も訪れ、全体開園前に「みらいの森」に植えた椿の苗木の様子を確認しました。昼食時には入谷の「農漁家レストラン松野や」に移動。貸切で「海鮮はっと汁の定食」をいただきました。

高台移転団地集会所で「小さなたがい市」

戸倉沖田の防災移転団地集会所広場で 10 月 9 日、NPO 法人ウイメンズアイが主催する「小さなたがい市」が開かれました。屋外のテントには、お弁当や惣菜、まんじゅう、餅、団子、手作りパン、自然卵のクレープを売るお店など 6 店舗が出店。入居者や近隣の住民など約 100 人が来場し、買い物を楽しみました。戸倉小の 1 年生も生活科の授業で見学に訪れました。受付では手指の消毒、検温、マスク着用が徹底され、連絡先の記入が求められました。



志津川東復興住宅で「秋の芋煮会」

志津川東復興公営住宅で 10 月 1 日、芋煮会が行われました。コロナ禍で、全ての行事やイベントが中止になる中、みんなで工夫して何かできないかと、同住宅の入居者で組織する「男性のための料理教室」（渡辺博代表、18 人）のメンバーが企画。「ほほえみの会」の女性役員がお手伝いをしました。集会所の調理室は利用せずに、縁側にガスや調理器具を用意して炊事し、密を避けて公園内の四阿で試食会。「作って・食べて・つながる」交流をしました。



高台移転団地で干し柿づくり

歌津地区の防災集団移転みねはた団地の集会所で10月28日、干し柿づくりが行われました。団地の入居者で作る「いきいき会」（三浦みき子代表、会員15人）が会員に呼びかけて実施したもので、8人が参加しました。山形県の農家から提供された庄内柿およそ500個を、1個1個ていねいに皮を剥き、カビ防止のため熱湯にくぐらせ、ヘタ部分を糸を通して吊りました。集会場の軒下には、秋の日差しを浴びてきれいな“柿すだれ”ができました。



コロナに負けない！

地域に寄り添う団体紹介

第2回 一般社団法人 カリタス南三陸

町内で活動を続けていらっしゃるカリタス南三陸代表理事の千葉道生さんにお話を伺いました。

ーいつから、どのような活動を？

2011年4月に活動を開始。最初は避難所のお手伝いや町の片づけでした。地域に寄り添うように心がけ、お茶っこ会や個別訪問、農業・漁業のお手伝い、障がい児や子どもの見守りやモアイづくりなどを行っています。日本と世界中から約9年半で19,300人程のボランティアさんが来てくださいました。

ー活動の拠点と運営スタッフは？

登米市東和町の米川に拠点があり、ベースと呼んでいます。スタッフは多い時で5人で、現在は3人です。

ー新型コロナの影響は？

お茶っこの中止が続く、ボランティアの受入れは状況によって対応していますが、南三陸に来たくても来られない方が大勢いらっしゃいます。地域でも都心でも、コロナで苦しんでいることや、日々の暮らしぶり、悩みなどを話してくれる方が少なくありません。



(右から千葉さんとスタッフの白石さん、小野寺さん)

ーコロナ時代にはどんな対応が必要ですか？

過度に恐れる事なく、リスクを考慮しながら信頼しあえる緩やかな関係性を一人ひとりと築いて行く事だと思います。

ー地域の人々へのメッセージは？

地域の繋がりが求められている今、元々南三陸で大切にしてきた「結いっこ」が、日本中に広がっていったら嬉しいです。今後も地域を大切にしながら、開かれた町であることを願っています。

春先からコロナ禍で社会の動きがすっかり止まってしまいました。町内の災害公営住宅では外部からの支援団体の訪問が途絶え、三密の回避が難しい行事・イベントは全て中止となっています。集会所での活動も自粛で、かろうじてラジオ体操が屋外で行われている程度ですが、それすらも寒さが募ってきているのでいつまで続けられるか心配です。このままでは多くの人が孤立を深め、精神的な落ち込みや体調悪化が避けられません。人は、他人と交わり、会話し、ともに行動することに生きがいを見いだします。これから寒くなると感染者が増えるという懸念もありますが、感染防止の対策を万全にしなからリスクを減らす工夫をし、入居者のつながりを持てるような取り組みを続ける必要があります。

【雑感】

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地 NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

南三陸 復興まちづくり通信

第 79 号 (令和 3 年 1 月発行)



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

令和 2 年度 復興庁「新しい東北」復興・創生顕彰 一般社団法人 復興みなさん会が選ばれる！

復興庁は 12 月 25 日付で、「新しい東北」復興・創生顕彰の選定結果を発表しました。原状復帰にとどまらない、より魅力的な「新しい東北」の創造に向け、人口減少や産業空洞化、コミュニティの衰退といった被災地で顕著な課題を克服するための取り組みに貢献している個人・団体に光を当てることにより、その活動を広く発信しようとするものです。

今回、自薦・他薦による応募 149 件の中から 11 件が選定され、他薦により審査対象となっていた、南三陸町の復興みなさん会（後藤一磨代表理事）が復興・創生顕彰に輝きました。

復興みなさん会の今回の受章は、平成 30 年 2 月の「S（支え合い）-1 グランプリいがす大賞」受賞、同年 8 月の復興大臣よりの「感謝状」授与に続く 3 度目の栄誉となりました。

顕彰式は 2 月 22 日（月）に仙台サンプラザで開かれる「新しい東北」交流会席上で行われます。

伊里前国道 45 号が迂回路から新ルートに切り替え

震災で被災し、復旧工事が進められている歌津伊里前地区の国道 45 号は、伊里前復興まちづくり事業などとの調整を図りながら整備を進めるため、交通を迂回させていましたが、12 月 16 日に新しい道路に切り替わりました。暫定開通区間は「ハマレー歌津」から三嶋神社の北側を通り、管の浜地内のハーレー自動車钣金付近までの約 600 ㍓です。歩道や側溝の整備、既存の町道への接道などの工事が今年度内の完成を目指して続けられる予定です。



山元町「つばめの杜公園管理会」が来町 意見交換会

山元町「つばめの杜中央公園管理会」の会員ら 16 人が 11 月 6 日に来町し、復興みなさん会会員と交流しました。みなさん会の事務所で南三陸町の被災状況や復興計画、みなさん会の活動状況、復興祈念公園の概要などについて説明があった後、公園管理のあり方や共通の課題について意見を交わしました。その後、中橋を渡り、みなさん会のガイドで震災復興祈念公園を視察。祈りの丘や旧防災対策庁舎（＝写真）、みらいの森、語り継ぎの広場などを見学しました。

戸倉復興公営住宅で「椿のお話し会」

戸倉復興公営住宅の集会所で11月9日、復興みなさん会主催の「椿はな咲くまちづくりお話し会」が開かれ、入居者など15人が参加しました。みなさん会のメンバーが、ドローンで撮影された写真を使って10月に全体開園した南三陸町復興祈念公園の概要を説明しました。意見交換の中ではモアイバスで祈念公園内を訪れてみたいとの声が上がりました。検温や手指の消毒、マスクを着用し密を避けるなど、コロナ対策をしながらの交流会でした。



高台団地で「なつかしい昭和 昔を語る会」開催

NPO法人 20世紀アーカイブ仙台が主催する「なつかしい昭和 昔を語る会」が11月10日、みねはた団地集会所で開催され、歌津地区の住民約20人が参加しました。第1部では、昭和30年代の集団就職のニュース映像や、懐かしい昔の暮らしを紹介する写真などを鑑賞。第2部では、「きぼうの会」のメンバー6人が「名月赤城山」「関の彌太ッペ」「天竜三度笠」などの股旅舞踊12曲を披露。来場者から盛大な拍手が送られました。

検温や手指の消毒、マスク着用が徹底されました。



「歌津地区支援の会一燈」がネットワーク会議

歌津地区でコミュニティ支援活動を行っている「復興支援の会一燈」（小野寺寛会長）の第2回ネットワーク会議が10月21日に開催され、区長、契約会長、小・中校長ら21人が出席しました。協議の中で、①ハマーレ商店街前広場の整備は国道迂回路撤去後の新年度に造成工事着手、②港地区の国道45号は今年度末完成の見通し、③同駅前広場の整備は4年度完成、④地区内8カ所の防潮堤工事の進捗率は約6割であることなどが報告されました。



【あとがき】

あれから十度目の正月を迎える。今年はどうな正月になるだろう。きつと新しい正月になりそう。新型コロナウイルスの感染は寒さに向かって増えてきている。おせち料理も宅配で、元朝参りはリモートで済ます人が多いようだ。東京からの帰省客も少ないだろう。時間も空間も空いたままで、懷中也淋しい。

こんな時は海や山に出掛けるのが良いように思う。初日の出を拝みながらこれからの私たちの歩む先を考えてみてはどうだろう。人生百年時代を迎えたといっても、この十年に経験した事は大きい。震災とコロナの二つの災害から何を学んだのか？大きな体験だったからこそ、この先に見ようとする想いも深い。明るい新年を御来光に祈りたい。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

南三陸 復興まちづくり通信

第 80 号（令和 3 年 2 月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を毎月発行しています。

「道の駅さんさん南三陸」着工！来春開業へ祈願祭

南三陸町が志津川中心部に整備する「道の駅」建設工事の安全祈願祭が 1 月 12 日、現地で行われました。道の駅はすでに開業しているさんさん商店街と一体的に整備され、商店街北側に震災伝承施設「南三陸 311 メモリアル」が入る駅舎や J R 気仙沼線 B R T 志津川駅などの交通ターミナル、駐車場などが建設されます。一部 2 階建ての駅舎には志津川湾を望む展望デッキが設けられ、八幡川の対岸には復興祈念公園が広がります。開業は来年 4 月の予定です。



（道の駅イメージ図＝隈研吾建築都市設計事務所提供）

災害公営住宅で「みんなのクリスマス会」

南三陸町社会福祉協議会などが主催する「みんなのクリスマス会」が 12 月 22 日、結の里と町内 6 カ所の災害公営住宅集会所で開催されました。コロナ禍で密集したイベントが困難なことから、地域のボランティアスタッフの協力を得て、クリスマスカレーとサンタのミニ帽子手作りキットが配られました。伊里前災害公営住宅では、事前に申し込みをした入居者と近隣住民約 50 人が次々と訪れ、テイクアウトのキーマカレーを笑顔で受け取りました。



ハマーレ歌津で年末恒例「歌津あわび祭り」

南三陸町の「ハマーレ歌津」商店街で 12 月 20 日、恒例の「歌津あわび祭り」が開かれ、アワビを買い求める客でにぎわいました。県漁協歌津支所が厳選した肉厚のアワビ約 330 ㌔を用意。1 箱（1 ㌔入り、4～6 個）1 万円で販売し、1 時間ほどで完売しました。朝 9 時からの販売会には、8 時の整理券配布を待ちきれず午前 6 時頃から列ができました。歌津地区は県内屈指のアワビの産地で、昭和天皇にも献上されたことで有名です。



震災復興祈念公園内に小学生らが植樹

南三陸町震災復興祈念公園で 12 月 13 日、植樹式が行われました。「追悼、継承、感謝、そして未来を創造する協働の場」をコンセプトに整備された公園を身近に感じてもらい、自分たちの成長と重ね合わせ、気軽に訪れて欲しいと町が主催したもので、町内の小学生と 33 人と保護者など約 50 人が参加しました。初雪が降り、とても寒い日でしたが、園内の「みらいの森」などに町木であるタブや、ヤマモミジ、イタヤカエデなど約 40 本を植えました。



震災前の志津川の街並みを再現した模型の展示会

震災前の志津川地区を再現した模型を展示する「ふるさとの記憶 2020」が 12 月 21～23 日まで、町役場の交流スペース「マチドマ」で開催されました。震災から 10 年を迎えるのを前に、住民の記憶に残る当時の街並みを思い起こしてもらおうと宮城大学が主催したもので、初日から大勢の町民が訪れました。模型は「失われた街」模型復元プロジェクトの一環で神戸大学の学生が登米市南方の仮設住宅に避難していた住民と制作したもので、町内での展示は初めてです。



ひころの里「松笠屋敷」で茅葺屋根の葺き替え完了

町の文化財に指定されている入谷ひころの里「松笠屋敷（旧須藤家居宅）」の母屋（＝写真）と長屋門の茅葺屋根の葺き替え工事が 12 月末に完了しました。松笠屋敷は文化・文政期の建造物と推定され、仙台藩における在郷武士住宅と農民住宅との形式上の関連を知ることのできる貴重な建物です。歴史的遺産、文化財として後世に伝承するため、平成 5 年から 2 年の歳月と 2 億円の費用をかけ解体修理し、当初の姿に修復したものです。（町の案内板より）



【あしがき】

暦の上では二月の「立春」が一年の始まり。まだまだ寒い中にも、ふっと春の気が立つ頃です。

今年たくさん降った雪もやがて解けると、あたたかい雨が田畑に降り注ぐ「雨水」という節季がやってきます。冬の間、土の中で寝ていた虫たちがむくむくと土の上に顔を出すのは「啓蟄」です。そのうち、昼と夜の時間がちやうど同じになる「春分」が来て、台所ではご先祖様を思いながら、ぼた餅を作ります。私たちはこうして昔から、四季の移り変わりを大事にしながら、目に見えるもの、みえないもの、その両方を暮らしの中で味わってきました。

目にはみえない「疫病」が、世界中の宿題となってる今こそ、もう一度、節目ごとに近づく季節の足音にも、耳を澄ませてみたいものです。

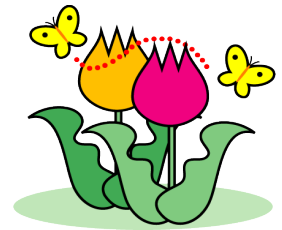
当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地 NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com

南三陸 復興まちづくり通信

第 81 号（令和 3 年 3 月発行）



一般社団法人 復興みなさん会

復興みなさん会は平成 23 年 10 月から、南三陸町内で東日本大震災の復興支援を継続しています。町内外の皆さまに当会の活動の内容をご理解いただくとともに、復興の最新情報をお伝えすることで、共に地域の再建への道を歩んでいただけるよう『南三陸復興まちづくり通信』を発行してきました。

東日本大震災 10 年 鎮魂と地域再生へ祈り深く ペイサイドアリーナで追悼式典

令和 3 年 3 月 11 日、東日本大震災発生から 10 年を迎えました。南三陸町では午後 2 時 30 分から町総合体育館を会場に大震災追悼式を行いました。コロナ禍で 2 年ぶりとなる式典には、マスク姿の約 800 人が参列。冒頭には国の追悼式が中継され、内閣総理大臣の式辞と天皇陛下のお言葉が放送されました。続いて佐藤仁町長が式辞を述べ、遺族の岩石桂惟さんのメッセージが代読で紹介されました。献花台には遺族代表、佐藤町長らの献花を皮切りに参列者が花を手向け、祭壇に手を合わせました。

10 年の節目の年とあって、首都圏など町外からの来訪者も多く、献花者は 1,100 人を超えました。

さんさん商店街から中橋を渡り、昨年 10 月 12 日に全体開園した震災復興祈念公園へ向かう人の姿



（復興祈念公園に向かう人の姿が終日見られた）

が一日中途切れず、旧防災対策庁舎や海を望む祈りの丘では犠牲者の冥福を祈る姿が多く見られました。

南三陸警察署新庁舎完成 3 月 22 日業務開始

震災の津波で被災し、移転再建された南三陸警察署が完成し 3 月 17 日、関係者や報道陣に公開されました。新庁舎は、志津川新井田地内の国道 45 号沿いの造成地約 5,400 平方メートルを県が取得して建設されました。鉄筋コンクリート 3 階建てで、延べ床面積は約 1,970 平方メートル。駐車場は 60 台分整備されました。南三陸消防署に隣接し、震災から丸 10 年を経て、住民の安全・安心を守る防犯、防災の拠点の完成です。

刑事課や交通課など 7 課体制で、業務開始は 3 月 22 日。同 23 日付で武田一宏署長が着任します。

昭和 58 年に志津川塩入地内に完成した旧庁舎は、大震災の津波で庁舎屋上まで浸水し、建物は現存したものものの使用不能に陥りました。平成 23 年 4 月、さんさん館（旧林際小学校）に拠点を移した後、同年 10 月に志津川沼田地内に仮庁舎が完成し、現在まで業



（完成した南三陸警察署の新庁舎）

務を行ってきました。

町内では震災以降、平成 30 年 2 月に入谷駐在所が移転・運用開始、同 30 年 3 月に戸倉駐在所が、令和 2 年 4 月に歌津駐在所がそれぞれ移転再建しました。

戸倉地区に追悼の場完成 きぼうの桜植樹式

震災から 10 年になるのを前に、戸倉地区に追悼の場が完成し 2 月 22 日、追悼モニュメントの除幕式と「きぼうの桜」の植樹式が行われました。

戸倉公民館で行われた式典には、地区住民の代表と戸倉小の児童など約 40 人が参加。(財)ワンアースの長谷川洋一代表理事が、若田光一宇宙飛行士とともに宇宙を旅した宇宙桜を津波到達地点上に植える「きぼうの桜」計画の概要を説明。公民館敷地東側の志津川湾を望む「追悼の場」では、戸倉小の 6 年生 8 人が「未来へつなぐ命のバトン」と刻まれたモニュメントの除幕を行い、2 年ほどの宇宙桜の苗木を植えました。桜は高知県仁淀川町から贈られた樹齢 500 年の「ひょうたん桜」の種から育てられ



(追悼の場に設置されたモニュメントと戸倉小の児童)

た巨桜の直系の子孫。公園の桜の数倍巨大化し、百年後には樹高 30 年以上になるという希少品種です。

復興みなさん会「新しい東北」復興・創生 顕彰受賞！ 仙台サンプラザで顕彰式開催

2 月 22 日午後、仙台サンプラザにて令和 2 年度復興庁「新しい東北」復興・創生顕彰の顕彰式が行われました。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、一般参加者は Youtube にて観覧する形で開催されました。応募総数 149 件の中から選ばれた 10 団体 1 個人の受賞者が参列しました。

南三陸町の復興みなさん会からも後藤一磨代表理事が出席し、東北復興局の英（はなぶさ）局長より顕彰状と記念の盾を受領しました。顕彰式に続く受賞団体の活動紹介では、高田篤会員が、復興みなさん会が取り組んできた地域課題、活動の経緯、今年度の活動内容について報告しました。



(英局長から顕彰状を頂いた後藤代表理事、写真＝復興庁)

【あとがき】

今年は、2 月中旬には土手の片隅に福寿草が咲きました。今月で震災から 10 年になります。町の復興も防潮堤や河川堤防、国道工事などのハード面は最終段階に入っています。

新しい年に入ってもコロナ禍で各地区の行事は、軒並み中止や簡素化を強いられています。災害復興公営住宅や防集団地では、健康体操や百歳体操などが行われていますが、今冬は雪も多く、外に出てコミュニケーションをとる機会も限られています。住民の心と身体の健康悪化が懸念されます。

先日、歌津総合支所で「ハマーレ歌津」前広場の整備計画の説明会がありました。来年度初めには芝生広場に子供たちや家族連れ、高齢者などの明るい声が響きそうです。広場に桜を植樹して下さる団体もあるそうです。感謝しながら町の復興を見守りましょう。

「通信」休刊のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大の影響を踏まえ、「南三陸復興まちづくり通信」の発行を当面休止いたします。人の流れや行政の動きがストップし、イベント中止などが相次ぎ、取材活動が制限され、紙面を構成するのが困難と判断いたしました。読者の皆様のご理解を切にお願い申し上げます。

当会は、中日新聞社会事業団東日本復興支援金、県共募みやぎチャレンジプロジェクト、仙台銀行まちづくり基金、みやぎ地域復興支援助成金、おらほのまちづくり支援事業および東日本大震災現地 NPO 応援基金[緊急助成]のご支援をいただき活動しています。

一般社団法人 復興みなさん会

〒986-0751 宮城県本吉郡南三陸町志津川字上の山 26
上山八幡宮 社務所内 minasan.msrk@gmail.com